

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第35号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水1-10-1 編集：会報部会 第76回生（昭和45年入学）

ああ麗水に金砂あり、崑岡玉を出すとか…

清陵で育ち磨かれたダイヤの原石たちは今！

放課後の教室にギターをつま弾く音が鳴り響く。全国高校ギターマンドリンフェスティバルで3年連続優秀賞を受賞している古典ギター部である。

卒業生には、ギターリストの唐澤奏穂さん（102回）がいる。幼少期から父正紀さんにギターを習い、卒業と同時に渡欧した。（奏穂さんの記事は次ページ

に掲載）奏穂さんを育てた正紀さんが、いま後輩たちを指導している。

「校風で好きなのは『自由』。音づくりは大変だけど、自由な校風の中でできるのがよい」と、部長の飯沢瞳さん（3年生・112回）は話す。自由が故に自らに厳しい練習を課し、努力を怠らない。音楽家を育ててきた土壌がそこにある。

こうした音楽・美術・書道・写真・文筆の分野で活躍する同窓生が最近脚光を浴びている。世界の舞台で活躍する芸術家も多い。

諏訪の地で生を受けたダイヤの原石たちがいかに磨かれ、いかにまぶしく光り輝く存在になりえたのか。その軌跡と現在の活躍ぶりを追った。



古典ギター部の皆さん

部長の飯沢瞳さん、唐澤正紀先生

平成21年度 定期総会案内

- 一、日時 平成21年6月27日（土）午後1時30分より
- 一、場所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」
- 一、議事
 - ①平成20年度会務・会計報告
 - ②平成21年度事業計画・予算案審議
 - ③その他
- 一、講演会（午後3時より）
 - 演題 私にとってのファンダメンタルズ
 - 講師 小池康博（76回）（※講演会要旨はP9に掲載）

- 一、懇親会（午後5時より）
 - アトラクション 76回生復活バンド
 - 会費 5,000円

前売りチケットは当番学年・同窓会事務局・各支部事務局・学年幹事にて取り扱い中。当日受付にて可。
同窓会事務局 TEL 0266 - 58 - 0356（月・金出勤）

諏訪清陵高校同窓会会長・松下勲（当番幹事 76回生、次年度当番幹事 77回生、サブ幹事学年 86回生・96回生）



profile

ケルン音楽大学卒業。現在、同校国家演奏家資格課程に在籍中。

1997年、第22回GLC学生ギターコンクール・高校生部第1位。

第28回全日本ギターコンクール・独奏部門銀賞。

2005年、第30回ギター音楽大賞・大賞部門優秀賞。

第32回日本ギターコンクールオムール・ソロ部門・第1位受賞。

転機となった高校時代、そして今

唐沢 奏穂 (102回・クラシックギタリスト)

幼い頃よりギターを弾いていた私は、クラシックギターの部活がある清陵高校に憧れて入学しました。部員不足から当時存続の危機にあった古典ギター部でしたが、全国大会出場を目標に、新入生の勧誘や毎日の練習に部員一丸となって取り組みました。どうしたらより良くなるか皆で熱く語り合い、実践したことを思い出します。そうやって試行錯誤していくうちに自分の中でギターの占める位置が変化していきました。この時のことが転機となり、ヨーロッパに留学し、さらに研鑽を積むことを決めました。

あれから10年、ギターを通して経験したことは、楽しいことも辛いことも沢山ありましたが、その都度、周りの人たちから学んだこと、自問自答の中から導き出した答えは、私の中の道しるべとなっています。別の道を選べばよかった、自分には向いていない、こんなことを時に耳にしますし、私の頭の中によぎったこともあります。でも、これまでの経験があったからこそ今の自分があると、今はあの時の選択は正し

かったとすることができます。その選択ができたのは、清陵での3年間があったからです。これから先も長い道のりですが、人間として、音楽家として、これから立ちほだかる試練からいろんなことを学んで成長していきたくと思っています。



profile

2007年、1stアルバム「love activity」にてCDデビュー。収録曲「鬼ごっこ」は、PS3用RPG「アガレスト戦記」の主題歌となる。2008年、iTunesにて配信シングル「K!Tunes」が「キズナ/デジタル難民」がチャート1位を獲得、また、2ndアルバム「Social Network」もチャート1位を獲得。収録曲「キズナ」は、Xbox用RPG「アガレスト戦記リアピアランス」の主題歌となる。また、収録曲「デジタル難民」は、テレビ東京系「モヤモヤさまぁ〜ず2」エンディングテーマとなった。さらに、2ndアルバムは、2008年iTunes ベストインディーズアルバムとして選考された。ネット中心で活動をする新しいタイプのアーティスト。

税理士資格に合格した異色アーティスト

鎌倉 圭 (101回・税理士ミュージシャン)

現在、僕は、税理士事務所に勤めながら、アーティスト活動をしています。

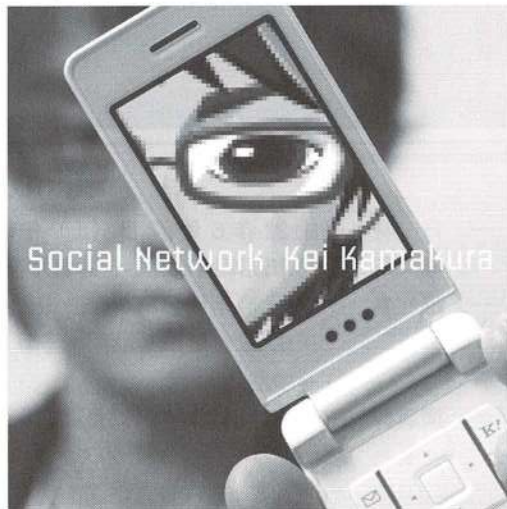
2007年、税理士試験に合格し、オーディションにも合格した僕は、全く別の二つの道を並行してやっていくことにしました。仕事帰りにレコーディングなんてこともよくあり、数字で悩んでいた次の瞬間には、メロディーについて悩んでいるそんな状況です。

仕事量は単純に倍になりますし、税理士の現場では音楽のことは理解されませんし、逆に音楽の現場では税理士は理解されないで大変です。

ただし、良いこともたくさんあります。一番良い点は、視野が狭くならないことです。二つの全く違う世界を味わっているのを、その業界特有の偏った発想になるのを防いでくれます。特に、楽曲については、その効果が顕著に現れていて、僕を作るクセのある曲たちは、税理士業界のような硬い業界を見ているからこそできるものかもしれません。

ところで、こういった二重生活は、実は、

高校時代によく似ているんです。僕は、高校時代、フォークソング部でバンドを組んでいました。なので、当時から勉強と音楽の二重生活だったわけです。今も青春を終わらせたくなくて、こういった道を進んでいるのかもしれませんが。





profile

岡谷市生まれ。4歳でピアノを始め、小口なをみ、松崎伶子、園田泰子各氏らに師事。桐朋学園大学演奏学部ピアノ科卒業後スイスへ留学。パーゼル市立音楽アカデミー演奏科にてルドルフ・ブーフビンダー氏に師事。2003年よりザルツブルクのモーツァルテウム国立音楽大学にてグレオン・クライナー教授に師事。05年、ピアノ教師国家資格試験に最優秀の成績で合格。04年、モーツァルテウムでのモーツァルト賞受賞。05年、オーディション合格によりドイツにてオーケストラと共演。08年、現代音楽コンクールにおいて3位(2位なし)受賞。現在は大学院課程において卒業準備中。

幅広い考え方と刺激を与えてもらった清陵時代

宮坂なつき (98回・ピアニスト)

ここオーストリアのザルツブルクはモーツァルトを生んだ町であり、サウンドオブミュージックの舞台にもなりました。毎年夏にはザルツブルク音楽祭が開かれ、世界中から集まった優れた音楽家たちによる様々な演奏会が開かれます。

清陵時代には、様々な個性をもったユニークな先生方、クラスメートたちから、幅広い考え方と刺激を与えてもらったと思います。

人間的にも音楽的にも未熟なままヨーロッパへ渡ったためにいろいろ大変な思いをしましたが、こちらの文化や言葉のなかで、日本にいたままでは経験できなかったであろう本当に多くを学ばせてもらい、成長の糧となったと思います。留学生活をあらゆる面で支援し、理解してくれた両親をはじめ家族、お世話になった方々にはとても感謝しています。幸い素晴らしい指導者にも出会い、レッスンや対話を通し

様々なことを学びました。教職免許も取得し、週2回ギムナジウムで子どもたちにピアノの個人レッスンもしています。これから多くの可能性を秘めている現代音楽の分野では室内オケとの共演、演奏会への出演などをしております。

今年、卒業試験を終えて日本へ完全帰国する予定です。今後は演奏と指導を通して人々に音楽の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。これまでの経験を、少しでも世の中に還元できればと思っています。



profile

桐朋学園大学を首席卒業、同研究科修了。ミシガン大学(米国)大学院留学。99年第2回世界マリンバコンクール第2位。日本・米国・アジア各国・欧州での多数の公演に招聘。米国よりCDをリリースし、各誌で高い評価を得ている。

音楽表現を豊かにしてくれたユニークな校風

浜 まゆみ (96回・マリンバ奏者)

私がマリンバに出合ったのは5歳の時です。動きながら演奏する楽器にとっても興味をもち、好奇心から習い始めました。5年後、初めてプロのマリンバ奏者の演奏を目の前で聴き、今までマリンバでピアノやバイオリンのアレンジ曲を弾いていた私はとても大きなカルチャーショックを受けました。その時に聴いたマリンバの低音の重厚な響きをいつか自分も出してみたいと思い、その一心で今に至っていると思います。

高校受験の際に、「音楽高校」も選択肢の一つにありました。しかし「高校生という多感な時期に音楽中心の環境に入るより、普通高校で友達と色々なことを経験し、感性を磨くことはとても大切」とのアドバイスを受け、清陵を受験することにしました。清陵を卒業して音楽の道に進み、国内外での演奏を通して「音楽」は国、言葉、人種

を超えて人と人を繋げてくれるものだと思います。人の心に響く演奏や音楽を表現するためには、技術だけではなく色々な経験と人間のもつ様々な感情が必要になります。多感な時期に「清陵」のユニークな校風のもと、伸び伸びと多くのことを経験し、学んだことは私の「音楽表現」を豊かにしてくれました。とても貴重な3年間だったと思います。





profile

オペリン大学音楽院アーティスト・ディプロマ科卒業。1992年度ルイスアンドアネットコフマン賞受賞。現在、弟とともに室内楽およびオリジナル作品の演奏活動を行う他、ジュニア合奏団等の指導を行っている。

www.pacificmodern.net/

音は人の心を物語る

幼い頃から両親にヴァイオリンの手ほどきを受け、高校時代は室コンに所属しましたが、当時、今の自分を想像することはできませんでした。音楽家は憧れでしたが、プロの道はあまりにもほど遠く、自信がなく、音楽のみならずいろんなことに空回りばかりしていた自分を思い出します。

卒業後、語学への興味もあり渡米を決意。その頃聞き惚れていたブラームスのピアノ五重奏曲を含めた数曲すべてを、留学最初の学期に偶然勉強することになり、運命を感じました。またそれまで録音の中だけの名手たちが目の前にいることも夢のようでした。

音で表現したいとの思いからヴァイオリン奏者を目指そうと決意したのはその頃です。様々な出逢いのなか、その時しか存在しない生の音の感動、一見届きそうにみえて実際は努力の果てにあることの尊さ、音は

山下美音理 (90回・ヴァイオリニスト)

思いそのものであることを教えられ、経験を積むごとに自分の心の未熟さを感じ、今もお努力中です。

特に印象深いのはフランス人オーボエ名手、ブルグ先生の経験からの言葉「自分の音、感性、音楽は自分の中に発見し育てるしか方法はない」です。音は人の心を物語る。これからも精進し、真摯に向き合い、聞いて下さる方に届けることができれば嬉しく思います。



profile

東京芸術大学、同大学院オペラ科、文化庁オペラ研修所修了、同在外研修員ウィーン留学。原田茂生、和田みのり、小口陽子、Ruthilde Boeschに師事。二期会「こうもり」ロザリンデ、新国立劇場「蝶々夫人」タイトルロール、二期会「ワルキューレ」ジークリンデ等。二期会会員。

良き師に恵まれて

高校2年生の秋、当時師事していたピアノの先生の勧めもあって、声楽の道を志すことにしました(勉強がさほど得意でなかったことも大きな要因でしたが)。良い指導者に恵まれたこと、また当時のクラス担任の先生の理解もあり、本当に運が良かったと思いますが、ほとんど一発勝負の関門を突破することができました。大学卒業後、大学院、文化庁オペラ研修所を経て、現在はソプラノの声楽家としてオペラやリサイタルを通じた音楽活動を続けています。

オペラはもともと西洋のものですから、日本ではまだ受け入れられているとは言い難く、経済的に成り立たせていくことは容易ではありません。華やかな表舞台の裏では、常にプロとしての高いレベルを求められます。また、一般の働く女性と同じく、仕事と家庭との両立という課題もあります。それでもこの仕事は、広く多くの人たちに感動を与え、同時に自分も成長をすることができるものであり、私にとっては一生をかけて挑戦を続けることができるただ

橋爪 ゆか (89回・声楽家)

一つのもので。音楽は世界のどこでも簡単に言葉の壁を越えることができますし、年齢や性別を選ぶものではありません。私は自分の演奏で少しでも心を動かしてくれる人がある限り、一生歌い続けていきたいと思っています。



国立新劇場「蝶々夫人」



profile

多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。広告代理店のデザイン制作部（株式会社四番町衆）などを経て1988年独立、有限会社曾根原デザイン事務所設立。日本パッケージデザイン協会会員。グラフィックデザイン全般、主にパッケージデザイン。東京コンラッドホテルのアメニティ、ビーナスフォートのロゴマーク、アサヒの焼酎SAZAN、永谷園のロゴマーク、パーソナル化粧品ブランドマーク等を手がける。

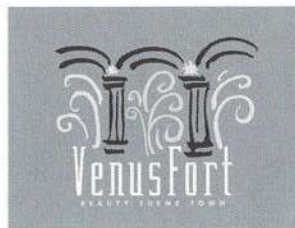
自らを省みることのできるすばらしい校風に感謝

曾根原悦夫（76回・グラフィックデザイナー）

新宿にデザイン事務所を構えて20年が過ぎました。あっという間でしたが、楽しくやってこれたように思います。案外スムーズにやってこれたのはなぜだろうと考えてみました。大学で勉強したから？ 広告代理店にいたから？ いやそれらが私に教えてくれたのは机上のデザインのやり方だけだったような気がしています。

会社（デザイン活動）を続けていくうえで大切なこと、例えば人との関わり方、物事の分別、人はいかにして感動するのか、そういった人間的な事柄を養う畑は清水ヶ丘—清陵にあったように思います。年間数十種類のパッケージデザイン、時に企業のロゴマーク等をお手伝いさせていただいてますが、いずれも多種多様な人たちとお互いの感性を巧く協調しあいながらデザインを決めていかねばなりません。聞く耳を持つこと、思いや

りがあること（これは人間だけでなく、物や環境に対しても）、独りよがりでないこと等、デザインをするにあたってのとても重要なセンスの多くは、清陵の自由な空気の中で養われたと思います。生まれながらの能力は致し方ないとして、人と関わる能力を大きく育てられるかどうかは「先生との出会いによるところも大きいかと思いますが（私は担任の先生や美術の先生に恵まれました）」学校全体の空気によるところがとても大きいと思います。「自反而縮雖千萬人吾往矣」、自らを省みることのできるすばらしい校風に感謝するとともに、清水ヶ丘—清陵で過ごした3年間の誇りに思っています。




profile

茅野市出身。主な著作に『医者もおどろく“奇跡”の温泉』『医者がすすめる続！“奇跡”の温泉』（以上、小学館）『奇跡の温泉医者も驚く飲泉力』（朝日新聞社）『日本全国神仏修行入門』（講談社）他。

「自分の眼で観て自分で考える」

朝倉 一善（73回・ノンフィクション作家）

私は昭和45年に清陵を卒業させられているが、卒業証書を手にしていない。卒業式当日、クラスメートがヘルメット姿で壇上を占拠(?)し、複数のテレビカメラがまわって常識的な意味での式が行われなかったからではない。私は自分自身の信念で式に参加しなかった。

清陵OBの好きな言葉に「自ら反みて縮くんば千万人と雖も吾往かん」がある。『孟子』の「公孫丑章句」にあるこの件は、その前の「自ら反みて縮からずんば褐寛博と雖も吾慄れざらん」と対になっている。政治体制のみならず教育課程や教育方法の改善を掲げた学園闘争が全国的に渦巻いていた当時であって、心太式に送り出されて紛争の牙城にそ知らぬ顔で入り込んでいくことを潔しとしなかったのだ。

浪人している間に書店経営や月刊誌編集に関わるうちに、自分で取材して雑誌媒体に原稿を寄せるということを始めていた。仏教や武道、健康、水問題や温泉といったテーマを、現場に立ち、自ら体験して、旧来の常識に捉われない、むしろ覆す視点で

取材・執筆する。これは、清陵卒業以降にその偉大さを知ることとなった故三澤勝衛先生の「自分の眼で観て自分で考える」生き方に「爪の垢ほど」は繋がっているかもしれないと考えている。



消えざる一撃



profile

東京学芸大学、同大学院終了。
元聖徳学園短期大学助教授。
創画会所属を経て無所属。絹
本による日本画を追求し、現
在個展 44 回。画論『東洋画
の宇宙観』（研究紀要）、その
他を雑誌に発表。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~tesshow>

それは牧谿^{もっけい}の「柿図」だった。当時、竹山道雄が『芸術新潮』に連載していた「日本人と美」の中に、その宇宙性が簡潔に述べられていた。図版と氏の文章によって、私は自分がこの人生も越えて憧れていくべきものが何であるかの一撃を受けたのである。後に実物を見た時よりも、その時の感動の方が大きかったかもしれない。そこには宇、即ち無窮の空間と宙、即ち永遠の時間に通う何かが、澄明な静けさのなかに描かれていた。清陵美術部の煌めく畏友や手の届かない世界の先輩たちの中で、才無きを自覚していた私が美術を志すことができたのは、その時この身も魂も捧げることのできる絶対の世界の存在を知ったからである。

それから 40 年という歳月を、絵筆を持って生きてこられた幸せを感謝している。無数の師や先達に、あらゆる姿で宇宙を荘厳する自然の様に、画材に水に感謝している。もちろん家族をはじめ、ささやかな歩みを支えてくれた多くの方々に感謝している。こうして私は描くことで全てにつなが

花岡 哲象 (72 回・日本画家)

り、それら全てがその顕われであるところの「一なるもの」の細胞のひとつとしての吾を生き、生かされている。



雪花乱墜 50 号絹本 平成 18 年

気がつけば大きな恵みを…



profile

カリフォルニア大学サンタバーバラ校（宗教学）卒業、京都大学大学院修士課程（仏教学）修了。フォーク歌手、翻訳家、著書に『追憶の 60 年代カリフォルニア—すべてはディランの歌から始まった』（平凡社新書）。CD に『ガビオタの海』『千の風』（オーリアッド）など。スプリングスティーン、ディランなどの対訳も手がけている。

小さな頃から歌は好きだった。中 2 のとき「禁じられた遊び」に魅せられギターを手にした。清陵入学後、ギターを弾く 3 人の友人ができ、文化祭で一緒に歌った。コードの弾けないぼくは、弾くまねをして歌った。

63 年 8 月から 1 年間、カリフォルニアの高校に留学した。11 月、ケネディ大統領が暗殺された。その頃ラジオでギターとハーモニカだけで歌われる不思議な歌を聞いた。「風に吹かれて」だった。その後コードを覚えて歌い始めた。

66 年秋、再びカリフォルニアに渡った。宿舎で突然「今日のことは明日まで忘れさせてくれ」という 1 行が聞こえてきた。ディランの「ミスター・タンブリンマン」だった。これが契機となり自分の歌を書き始めた。

69 年夏、帰国直前、ビッグサーの岩の上で太平洋を

三浦 久 (67 回・フォークシンガー)

眺めながら、日本に戻って何をしたいか自問した。答えは歌うことだった。フォークシンガーでありたいと切に願った。

70 年代、京都でフォークシンガーを目指したが評価されず、82 年信州に戻ってきた。しばらく歌をやめていたが、89 年天安門で戦車を止めようとする若者を見て再開した。今、少しの畑を耕しながら細々と歌い続けている。還暦を過ぎてようやく気がついた。40 年前の祈りが、聞き届けられていることに。





profile

1983年第8回NIKON伊奈信男賞、1995年日本ジャーナリスト会議特別賞、2005年第1回日本科学技術ジャーナリスト賞受賞。1998～03年岐阜大学地域科学部教授(メディア論、環境論)

アメリカを巡回する枯葉剤写真展

中村 悟郎 (62回・フォト・ジャーナリスト)

2007年2月から半年間ニューヨークで行った私の枯葉剤写真展はMAGNUMフェスティバル参加作品となり、その後は全米各地を回っている。これもひとえに清陵同窓会の諸兄から多大な財政的支援と応援をいただいたおかげである。それにしても、見にきた米国市民が「ベトナム帰りのアメリカ兵が枯葉剤のダイオキシンでガンになったのは知っていたが、ベトナム人にも被害があったのか」と言うのを聞いて驚いたりもした。米メディアが加害の事実をほとんど報道してこなかったことの反映である。

しかし、事態は積極的な反応も生んでいる。写真展は今年5月～7月まで「カリフォルニア写真ミュージアム」へ移動し、同時にカリフォルニア大学リバーサイド校(Los Angeles)で「Agent Orange(枯葉剤)会議」が研究者や文化人を集めて開催されるこ

とになった。写真展を契機にこうした“ベトナム戦争見直し”運動が起きるといえるのは嬉しいことである。開幕(5/7)の冒頭で記念講演をやれというメールが来たので、行ってくるつもりである。

私が報道写真に魅せられたのは土門拳の「ヒロシマ」である。無断で複写して引き伸ばし、1957年の清陵祭で展示したのであった。土門さん、著作権侵害ひらにご容赦を。



枯葉剤散布地区



profile

1938年、旧制諏訪中で美術の教鞭をとった画家・高橋貞一郎の五男として岡谷に生まれる。東京芸術大学油画科を経て63年同大学専攻科終了。62年より国画会に初出展し、以後出品を続ける。67年に資生堂ギャラリーで「高橋靖夫個展」を開催し、この年より欧州遊学を重ねる。90年、女子美術大学教授に就任し、97年同大学研修制度により欧州へ海外研修。

共生するよろこびを……

高橋 靖夫 (59回・洋画家)

父が画家であり、家中が油絵を描き、楽器を弾くというにぎやかな家庭でしたので、私も絵を描き遊んで育ちました。清陵3年の秋、父が病死し、今わの際に「美校にゆけ」と言い残したことから、急に毎日絵と向かい合う生活が始まりました。東京芸大入学後はセザンヌの影響の強い人体制作を続けました。この頃、父の生き様を思うにつけ、体力をつけねばとの思いが強く、戦後の芸大相撲部再建に再加、6年間けいこに明け暮れ、体力に自信をもったのは幸運でした。

多摩丘陵に住みつき、信州と往復する日々が続いていますが、私の感性の源は信州の里山辺の豊かな営みの中にあります。子供の頃、家の庭には山羊、鶏、家鴨が遊び、山羊の草採りは私の仕事でした。あの頃から随分時間が経ちましたが、自然とのふれ合いを楽しみながら描き暮らしている様は、昔とさして変わっていないなあと思います。あらゆる存在に生かされて対話の感動が生まれ

続く限り、ゆったりと構えて共生するよろこびを描き続けたいと願い、近年“地にあるものたち”のテーマに到達しました。

東洋と西洋の特質を学びつつ融合させて、色彩の音楽化をはかり、グローバルな時代にふさわしい世界をと念じて描いております。



地にあるものたち 30F

団体展に出品せず、師にも就かず

渡部 清 (56回・書家)



profile

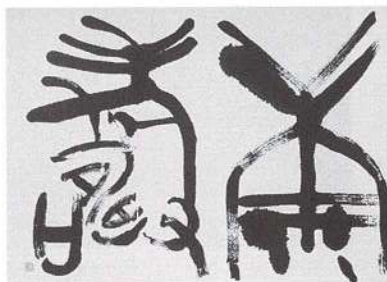
東京教育大学大学院終了(美術学専攻)。NHKアート・デザイン部勤務。横浜国立大学教授(教育人間科学部・国語・書道)。現在、日本相撲協会相撲教習所講師(国語・書道)。母校創立100周年を祈念して中国河南省原陽県の博浪公園に建立した校歌碑に刻まれた第二校歌冒頭の句を揮毫。

在校中、高校の校舎は最もひどい状態だったのではないだろうか。老朽校舎ながら後町敬堂先生の書道の授業は畳の部屋で、正座でという、ほかにあまり例を見ないものであった。

大学進学直前、長い療養生活を余儀なくされ、その間悩み考えることが多かったが、将来は芸術の道へという思いが次第に強くなっていった。就中小さい時、父に手解きを受けた書に一人牽かれるものがあった。回復後受験した学科は、全国の大学中初めて開設された書を専門に学習できる所であった。書の分野で初めて文化勲章を受章なさった西川寧先生の大学での指導に強い影響を受けた。

その後、私は書の団体展に出品せず、師にも就かず、書の芸術性の強い作品は個展で発表してきた。それらは漢字・かなを問わず広い分野に亘る。一方、書は実用性の強い芸術である。この方面の作品にも意欲的に取り組んだ。その点、NHKのテレビのタイトル制作部門に勤務できたのは幸いであった。加えてポスター・カレンダー・装丁・碑などに多くの作品を残すことができた。

また書の理論・歴史については、大学での講義、小中学校用の教科書、その他著作を通じて考えの一端を知らせ得たのではなかろうかと思っている。



康寿



シルクロード

新日本紀行

三澤勝衛先生の教えをうけた先輩に学ぶ

市川 一雄 (56回・著述家)



profile

諏訪市出身。地域紙編集長をへて地方出版に携わり、今井久雄著『村の歳時記』全4巻など出版。執筆活動に従事、著書に小説『と川石人譚』など。下諏訪町議会議長、諏訪郡公平委員長をつとめ現在下諏訪町文化財専門委員。

清陵の授業で強く頭に残ったのは、牛山正雄先生がくり返し三澤勝衛先生について語られたことだった。調査・観測してデータ化し、自分の頭で考えろというのが三澤先生の教えと受けとめた。三澤先生ご自身の地理学・天文学・気象学などにわたる独創の研究業績も知った。卒業後も三澤先生の教え子の先輩たちと交流が生まれ、お導きいただく幸運を得た。天文観測者の青木正博医師などは、三澤先生の志というものを語って飽きなかった。青木氏のお蔭で警咳に接することができた藤森栄一、新田次郎両先生も三澤学の実践者であることを知った。三澤先生の助手・小林茂樹先生の地道な研究生活にも瞠目した。これら諸先輩は鬼籍に入られ、三澤先生のことを話して下さるのは牛山充正氏だけになった。氏は三澤先生没後の生徒だが、三澤先生の指導のもと、生徒たちがつくった諏訪中学科学会の最後の会員の一人である。年次発行された『科学

会誌』を見せていただき、そこに載っている諸論文の真摯な内容に感銘を受けた。それは戸沢充則氏らがつくった『清陵考古学』誌にも共通する。

いま清陵で三澤先生を語る人なく、三澤文庫の何たるかを知らない生徒も多いという。雑誌『地理』の特集号に諏訪彰氏が、三澤先生と諏訪中学科学会についていい文章を残されている。これを同窓会で抜刷りし新入生に贈るというのはどうだろう。



霧ヶ峰の草原に立つ藤森栄一氏(左から2人目) 新田次郎氏(中央) 青木正博氏(右から2人目) 一昭和45年夏・筆者撮影

記念講演会 プロローグ

私にとってのファンダメンタルズ 小池康博 (76回)

今回の同窓会定期総会講演会講師・小池康博氏より、清陵時代の想いが込められたご寄稿をいただきました。時代の最先端で活躍する同窓生の肉声にふれるまたとない機会です。多くの皆様の定期総会講演会へのご参加をお待ち致しております。

約2年前、諏訪清陵高校に講演で呼んでいただく機会がありました。今の新しい校舎に入るのはその時が初めてでした。白を基調とした廊下や教室に昔の木造校舎の面影は全くありませんが、ただ窓から見える山々の景色は昔のままでありました。懐かしさと戸惑いに似た感覚が混在し、歳月の流れを感じました。きれいな体育館に通され、そこで講演を行いました。体育館に整列して座っている生徒たちは、当時のいわゆるバンカラな学生ではなく、現代の高校生たちのように思えました。講演の後、別の部屋に通され、生徒たちから熱心な質問を受けました。きらきら輝いている彼らの目をみて、当時、将来を夢みていた頃の自分たちを思い出し、強烈な愛着と懐かしさがこみ上げてきました。そして夢中になって彼らの質問に答えました。卒業してから30数年。母校とはいっつになっても心の原点であることを実感しました。

1980年代当時、私は、ギガビット以上の光信号を送れる高速プラスチック光ファイバーは本当に可能か、という研究上の大きな岐路に立たされていました。私が提案していました高速プラスチック光ファイバーは、光ファイバーの中に屈折率の分布を形成させるというものです。そうすると、原理的には今までの光ファイバーより数百倍の高速の光通信が可能となるのです。しかし、当時の光ファイバー研究の主流は、如何に不純物を除去してファイバーを透明にするかというものであり、私の提案はその逆でありました。当時学会で受けた質問は、「小池のアイデアは面白いけれど、屈折率の分布をつけるために他の分子を加えることは不純物を加えているのと同じではないか」というものでありました。くやしい思いをしました。

実際、当時のプラスチック光ファイバーは、散乱損失

が大きくとても使い物になるものではありませんでした。光は数メートルで消えてしまいました。徹夜をして作っても作っても透明な光ファイバーは得られませんでした。成果が出ない以上、プラスチック光ファイバーの研究を続けるわけにはいかず、一旦研究を断念せざるを得なくなります。私にとって初めての挫折でした。しかしそれから別の研究テーマをやりながら、夜には一人で研究を続けました。あきらめることはできませんでした。

平成元年(1989年)、私に大きな転機が訪れました。光通信の本拠地である米国ベル研究所に研究員として招かれ、「光散乱とはそもそも何か」という光の本質に迫る研究は大きく展開されます。研究を通して私のバイブルとなった論文は当時の最先端の論文ではなく、1910年代のアインシュタインの「光散乱とは何か」という論文や、1940年代のデバイというノーベル物理学者の論文でした。それらの論文と私の研究成果を結びつけることにより、1994年に今の原形となる低損失の高速プラスチック光ファイバーが誕生します。また、プラスチック光ファイバーの開発で最大の問題であった光散乱損失を、逆に増やして制御する発想から、光散乱導光体が生まれました。それらはソニーバイオやシャープなどの液晶ディスプレイ・バックライトとして結実しました。

私はこれら一連の研究を通して、最先端の科学の壁を打ち破るために必ずしも最新の論文が役に立つわけではなく、本質に戻る、ファンダメンタルズに戻る大切さを身をもって学びました。そして、30数年が過ぎても心の原点である諏訪清陵高校同窓会で皆さまにお会いすること、これも私にとって人生のファンダメンタルズであります。



小池康博略歴

現 職 慶應義塾大学理工学部・慶應義塾大学大学院理工学研究科教授。(独) 科学技術振興機構 ERATO - SORST 小池フォトニクスポリマープロジェクト研究総括

経 歴 1982年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了、1983年慶應義塾大学理工学部助手、専任講師、1992年助教授を経、1997年～現在慶應義塾大学理工学部教授。1989年～1990年米国ベル研究所訪問研究員。2003年～2004年3月東北大学客員教授。2007年4月～ Honorary Doctorate of Eindhoven University of Technology

専門分野 高速GI型ポリマー光ファイバー・高輝度光散乱導光体・ゼロ複屈折性ポリマー・屈折率分布型ポリマーレンズ等をはじめとするフォトニクスポリマー

主な受賞 1994年米国プラスチック工学会(SPE) SPE International Engineering and Technology Award - Fred O. Conley Award -、1995年日経BP技術賞・情報システム部門、2001年第42回藤原賞、2002年度高分子学会賞、2006年紫綬褒章、The 2007 MOC Award 他

主な著書 「プラスチック光ファイバー」共立出版、「高分子の光物性」共立出版、高分子学会編 高分子先端材料 One point 1「フォトニクスポリマー」共立出版、高分子学会編「基礎高分子科学」東京化学同人、他



就任のご挨拶

同窓会長
松下 勲 (59回)

会員各位におかれましては益々ご清祥にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平素は同窓会活動に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成20年度の定期総会におきまして、新たに会長を仰せつかりました。もとより微力ではございますが、会員の皆様方のお力添えを頂きながら、その任を果たして参りたいと存じますので何卒宜しく願いいたします。なお、副会長には、新たに関西支部長の上島武さん(57回)、東京支部長の小川勝嗣さん(59回)、茅野支部の矢崎和広さん(68回)が、そして引き続き長野支部長の茅野實さん(52回)、今井正喜さん(58回)、生越万理子さん(66回生)が選出され、また監事には矢崎育男さん(51回)、河西節郎さん(52回)が再任されました。ご退任されました前会長の林尚孝さん並びに前副会長の岩田昌久さんには、これまで同窓会および母校の発展に多大なるご尽力を賜りました。ここに、改めて心からの感謝とお労いを申し上げます。

さて、本同窓会の目的の一つに母校の発展に寄与することが掲げられていますが、当面の重要課題は母校の教育改革を支援してゆくこと、であります。いつの世にあっても、時代に即した教育改革は不可欠ですが、ここ数年来、諏訪地区中学生の一部に松本の高校や近県の中高一貫教育校への流出傾向が見られ、このことは将来、母校はもとより諏訪地域全体の教育水準や活性化にも深い影を落としかねない、と懸念されています。先般、県教育委員会からは高等学校再編計画案が示され、その中で諏訪地区については、生徒流出等を解決する新しいタイプの学校の導入を検討する必要があると述べています。これまで母校では、県外の学校を視察するなど、教育改革の方途について研究してきましたが、同窓会としても平成18年に「母校の発展を支援する会」を立ち上げ、母校の教育改革の方向に沿って可能な限り支援してゆく体制を整えています。母校が次代を担う有為な若者を育成し、地域からもより信頼される魅力ある高校となるよう、引き続き特段のご協力とご支援をお願いいたします。

次に、財団法人諏訪清陵会についてですが、先頃公益法人の制度改革が示され、平成25年12月までに新制度に移行することになりました。これまで諏訪清陵会では、母校の生徒を対象とした育英事業、教育振興事業、教育研究助成事業などを行ってきましたが、新たな制度による公益法人認定基準では、「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする事業」となっています。現在、役員段階で教育支援事業が円滑に継続できるよう検討中ですが、母校の生徒たちにとってより良い形態を探って参りたいと存じますので、引き続きお声をお寄せください。

今後とも会員各位の変わらぬご厚情をお願い申し上げ、皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念いたしております。なお、私事、昨年春の叙勲に際し同窓各位よりご丁寧なる祝意を賜りました。ここに謹んで御礼申し上げます。



「清陵バカ」として

前同窓会長
林 尚孝 (52回)

昨年の同窓会報で、早ばやと退任のご挨拶を申し上げました。公的な報告は前号で十分と考え、今回は「清陵バカ」として私的な感想を書いて、退任のご挨拶といたします。

旧制諏訪中学に入学したのは、敗戦の翌年1946年4月のことでした。食糧難、物資不足のなかを、岡谷から上諏訪まで汽車通学をしました。学制改革により6年間清水ヶ丘に学び、最後の諏訪中学生として諏訪清陵高校を卒業しました。

75年の人生を振り返るとき、清水ヶ丘での6年が何物にも代え難い貴重なものでした。第一に、虚弱児童そのものであった身体を鍛えられたこと。第二に、自分の目で見、自分の頭で考えるという精神を学んだこと。これらの恩恵は、母校を卒業して大分経ってから自覚したことでした。当然の結果、母校への熱い思いを抱くようになりました。

人生の転機は、半年間の休職ののち、職場復帰したときに訪れました。職場は、「すべて世はことなし」と肅々と動いていました。虚無感を感じると同時に、「人真似でない人生」として「社会の潤滑油になる」ことを考えました。それ以降は、もろもろの同期会、職員組合などの世話役を進んで引き受けました。中には、山崎農業研究所事務局長というような仕事も引き受け、東大時代の恩師山崎不二夫先生の喜ぶ顔を見て満足していました。

双樹会(52・55同期会)との関係を深めた結果、一昨年11月に同期の皆さんから、三井光之兄と林連名の感謝状を頂戴しました。その結びに「偉大なる『清陵馬鹿』萬歳」とありました。心温まる感謝状は、三井光之兄の胃癌を配慮して贈られ、彼は昨年8月15日に他界しました。この仲間たちと『双樹会データバンク』、ビデオ『唐沢山に秋長けて』、母校100周年記念文集『ああ信山の』の制作に携われたことは、私の大切な宝物です。

清陵同窓会との深い繋がりができたのは、1983年に刊行された『牛山正雄先生記念文集』の編集委員になってからです。購入予約者の四分の一にあたる214名が双樹会メンバーだったことにも牛山先生の存在の大きさが窺われます。

大先輩方に説得され、保延醇一氏(41回)のあとの東京支部事務局長を引き受けました。小平祐支部長(42回)の下で、事務のOA化、『東京支部だより』発行、二つの名簿『92年版会員名簿』、『2001年版人名録』刊行ができたのは幸せでした。また、東京支部の責任で100周年記念ビデオ『清水ヶ丘にうたう』が制作されたのもよい思い出です。

ボランティアをしているつもりでしたが、振り返ると与えられることの多い人生でした。大先輩から在校生まで幅広い方々と知己になれば、これらの方々から新しい世界を教えて頂きました。専門外の拙著『仮面の人森鷗外』を2005年に出版できたのも、そのお蔭です。収支勘定をしますと、「人間浴」の恩恵の方を沢山頂戴しました。

残念なことは、伝統の中で一番重要である「自治」が母校から消え去ったことです。

4年間いろいろお世話になり、本当に有り難うございました。



伝統の創造力再び

学校長

篠原 秀郷

諏訪清陵高等学校同窓会会員の皆様におかれましては愈々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃、母校の教育振興のために物心両面にわたって温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

4月3日に241名の新入生を迎え、平成21年度が始まりました。入学式の式辞で、私は立花隆さんの次の言葉を引用して、学ぶための基本的な心構えを生徒たちに求めました。「君たちは今、いささか誇らしい気持ちで、自分はすでに何者かになったような気持ちでいるかもしれませんが、だけど君たちはまだ何者でもありません。ノーボディです」(『脳を鍛える』より)「今は何者でもない(ノーボディ)」という徹底した謙虚さと、しかし必ず「何者か(サムボディ)になるために」3年間にわたって知性と人間性を鍛えるという強い意志、それが高校で学ぶために必要な姿勢であると考えているからに他なりません。

本校は公立進学校として、変化を主体的に受け止め、柔軟に時代を切り拓くたくましい人間の育成が強く求められています。その実現にとって、傲慢と脆弱は最も避けなければならない陥穽です。なぜならば、勇気を奮い、現在の自己を相対化する営みのうちに、はじめて未来が胚胎することになるからです。「真の伝統は未来の創造行為に射程が向けられている」(辻井喬『伝統の創造力』)という言葉の真の意味がここにあります。切磋琢磨して先賢子の壁を超え、新たな歴史を創造していくために、その最も基本的な心の在り方を、同窓生の皆さんの最も若い後輩たちに伝えた、そのような入学式として記憶することになります。

さて、平成14年度より施行された「学校完全5日制」以降、高校では教育課程をはじめとする教育内容全般の精選が課題となりました。平成18年秋に全国の高校で実態が明らかになった所謂未履修問題は、この課題を一層先鋭化することになりました。それは、言い換えれば、必要な授業時間を如何に確保するか、という点に収斂されていたと言えます。本校では、全国や県内の進学校と同様に、行事の再考や3月の授業実施、単位数増などでこうした事態に対応してきましたが、更に土曜日の活用を図ることを目的に、平成15年にPTAの主唱によって「自反会」が設立されました。設立の趣旨で、「次代を背負うに足る教養豊かな人材育成の一助」とすることを謳い、これまで学力伸長等の講座を展開してきました。今年度は、この「自反会」の事業を拡充し、教員の自主研修をさらに促すとともに土曜日の講座を増やして向学の気風を涵養することとしました。同窓会の皆様にはこの「自反会」に対しましても、その意義をご理解いただき、後輩の成長に資するご支援を賜れば幸甚です。

県内では、少子化に対応した高等学校の第1期再編計画が6月に発表されます。その後も魅力ある高校づくりを念頭に、さらに新たな改革が進みます。本校の在り方につきましても、今後とも皆様のご意見を賜りながら考えて参る所存でございます。

皆様のご多幸をお祈り申し上げ、変わらぬご支援とご協力をお願いして挨拶いたします。

学 校 だ よ り

2009年4月3日(金)、入学式が執り行われ241名(男子142名、女子99名)の新入生の入学を許可し、全校生徒732名(男422名、女310名)、教職員66名で平成21年度の新しいスタートを切りました。

それに先立ち、3月1日(日)には第61回卒業式が挙行され、241名の生徒がそれぞれの将来に向かい本校を旅立ちました。

対面式は4月6日、新入生歓迎会が10日に行われ、クラスごとの新入生歓迎乗艇も終了しました。対面式といえ、私の高校時代は1年生が校庭に整列し、歓迎の怒声とシーコールが飛び交う中、先輩方の怖い視線を感じつつ必死になって校歌を覚え歌ったものでした。現在地方会を支持する生徒は3割、試胆会も影を潜めました。そんな中、「金色の民」で団結を高めあう姿はいまだ健在です。また歴史を越えて先輩と後輩を一つにつなぐ校歌は今も清陵の誇る文化の一つですが、歌詞を見ずに歌える生徒は全校の2割にすぎません。しかし6割を超える生徒が校歌を好きと答え、9割の生徒が清陵を好きだと答えています。時代は刻々と変化し、自治の衰退が叫ばれて長いですが、母校に誇りを持ち、勉強に、部活動に今を懸命に生きる清陵生の心意気は脈々と息づいております。

今年度の清陵祭は7月3日(金)～6日(月)、4日と5日は一般公開の予定です。ぜひご来校ください。端艇大会は9月9日(水)下諏訪漕艇場にて、湖周マラソンは10月21日(水)の予定です。

(教頭・石城正志・78回)



昭和シェル石油特約店



株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店 (0120) 210-613

代表取締役会長 細川 昭 八 (51回)

代表取締役社長 細川 洋 一 (84回)

専務取締役 宮坂 友比古 (67回)

常務取締役 細川 浩 二 (86回)

昨年度（20年度）のクラブ・同好会の活動実績

端艇部は4種目でインターハイ出場、中でも女子舵手クオドルプルは決勝3位でした。また古典ギター部は大阪で開催された全国ギターマンドリンフェスティバルにおいて全国知事会賞を受賞しました。昨年度から部へと昇格した、かるた部も2年連続で全国大会への出場を果たしました。フィギュアスケートの野口博一君も2年連続でインターハイに出場しました。また水泳部の二村史彦君と柿澤優里さんが北信越大会に進みました。多くのクラブが南信大会を勝ち抜き県大会に駒を進めました。中でも野球部は夏の大会で準決勝まで進み惜しくも佐久長聖に2-3の僅差で破れました。SSHコースで天文気象部の畑中美帆さんは第5回中高生南極北極オープンフォーラム（日本学術会議・国立極地研究所主催）において「南極の気候で作る高野豆腐はうまいのか？」で見事最優秀賞に選ばれました。

（学友会顧問・藤森秀則）

女子クオドルプル全国3位！（端艇部）

部員総勢62名で臨んだ県大会において、男女6種目中4種目を制し、埼玉県戸田市で行われたインターハイへ出場。女子舵手付クオドルプル（写真：力漕、左から市田・田畑・後藤・平・平岡）は見事全国3位入賞、男子舵手付クオドルプル（中村・平林・金澤・宮坂・奥村）は僅差で決勝進出を逃すも、春の全国選抜の雪辱を果たし全国Best12。また、体格的には見劣りするシングルスカル（小口・藤森）も全国の舞台で互角に渡り合うことができた。

高校生になって始めたボート競技ですが、互いに切磋



琢磨し、インターハイには出場できなかった選手を含めた端艇部一丸となった結果であると思います。インターハイ出場に際し、ご支援ご声援いただきました同窓会長はじめ同窓会や端艇部OB会の皆様に感謝申し上げますとともに、今後のご支援もお願いいたします。

昨年末、部員が交通事故により亡くなるという悲しい出来事がありました。彼のボートへの熱意を忘れることなく、チーム一丸となって、日々努力していきたいと思っています。

（端艇部顧問・橋本智）

SSH「海外科学セミナー」アラスカ研修

2009年2月9日から14日まで4泊6日で、予備観測を含めて4回目となるアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスでの



ー20℃のなかオーロラの出現を待つ

海外科学セミナーを、派遣生徒27名で実施した。

昨08年8月23日に諏訪市文化センターで行ったサイエンスフォーラムでは、48回生でオーロラの権威の東京大学名誉教授小口高先生と82回生で自然写真家の牛山俊男先生にオーロラをテーマにご講演いただき、また10月28日に本校で行ったサイエンスフォーラムでは、たまたま来日されていたアラスカ大学名誉教授赤祖父俊一先生に北極圏についてご講演いただき、全校でアラスカ関連の学習をすることができた。さらに、11月5日の奈良・京都への2学年研修旅行の2日目、三澤勝衛先生が太陽黒点の観測結果を報告されていた東亜天文学会発祥の地である京都大学花山天文台で天文台長の柴田一成先生による太陽観測の研修を実施した。

これらをはじめとする多くの事前研修や課題探究ののち、現地で3夜にわたるオーロラ観測や、3日間で11講座にのぼるアラスカ大学国際北極圏研究センターを中

品質一筋

造り手である私たち自身が舌鼓を打って飲む酒。

大切な家族に安心してすすめられる酒。

親しい友人に胸を張って贈ることができる酒。

私たちはお客様にそんな真澄をお届けしたいと願っています。

だから、品種や産地が分からない米は買いません。

製造工場のディテールには徹底して



こだわります。

一〇〇%自社製造を守りぬき、

純米酒比率の向上にも力を注ぎました。

創業から三十七年目となる今年も、

私たちは

お客様のお顔を自らの家族や友人の顔に重ね合わせながら

美酒を醸し続けます。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ

清酒真澄醸造元

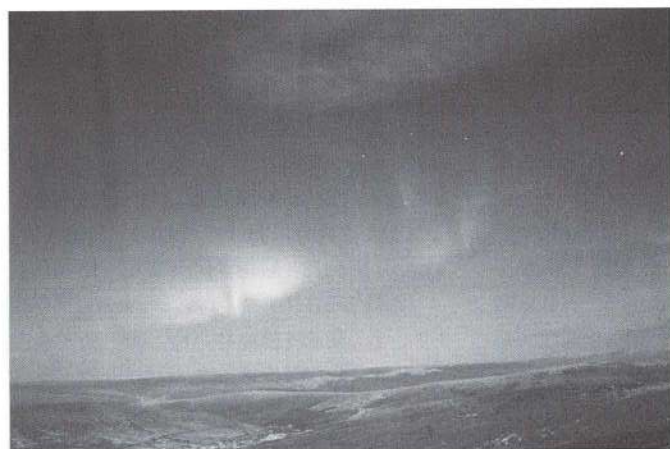
宮坂醸造株式会社

〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16

TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477 www.masumi.co.jp

平成 20 年度末 入試結果 (平成 21 年 4 月現在)

国立大学	現役生	浪人生	合計	私立大学	現役生	浪人生	合計
北海道	4		4	成城	1		1
弘前	1		1	国際基督教		1	1
東北	3		3	専修	5	3	8
宇都宮	1		1	創価	3		3
筑波	4	3	7	大東文化		3	3
群馬	1		1	玉川	1		1
埼玉	1		1	多摩美術	1		1
千葉	6	1	7	中央	6	4	10
お茶の水	1	2	3	津田塾		1	1
電気通信		1	1	東京家政学院	2		2
東京		3	3	東京経済	3	4	7
東京学芸	4		4	東京工科	1		1
東京芸術		1	1	東京女子	2		2
東京工業		1	1	東京造形	1		1
東京農工	2		2	東京電機	2	1	3
一橋		1	1	東京農業	1	2	3
横浜国立	2	1	3	東京薬科	2	4	6
新潟	2		2	東京理科	9	4	13
上越教育	2		2	桐朋学園	1		1
富山	1		1	東邦	2	4	6
金沢	2	1	3	東洋	1	2	3
山梨	6	2	8	日本	14	10	24
信州	27	9	36	日本女子		1	1
静岡	5	2	7	法政	11	9	20
名古屋	4		4	武蔵		1	1
名古屋工業	1		1	星薬科		3	3
三重		1	1	東京都市	4		4
滋賀	1		1	武蔵野美術	1		1
京都	1	2	3	武蔵野	2	1	3
大阪	1		1	明治	10	10	20
神戸		1	1	明治学院	2	6	8
奈良教育	1		1	明治薬科	1		1
奈良女子	1		1	日本獣医生命科学	2		2
鳥取	1		1	明星	2		2
香川	1		1	立教	9	7	16
九州工業	1		1	早稲田	9	9	18
国立大学合計	88	32	120	麻布	2	1	3
公立大学	現役生	浪人生	合計	神奈川	4		4
宮城	1		1	相模女子		1	1
茨城県立医療	1		1	関東学院	1		1
前橋工科	1		1	新潟医療福祉	1	4	5
高崎経済	2	2	4	金沢工業	1		1
群馬県立女子	1	1	2	山梨英和	2	1	3
首都大学東京	5	1	6	山梨学院	3		3
横浜国立	4	1	5	健康科学	1		1
都留文科	1		1	佐久	3		3
長野看護	1		1	諏訪東京理科	1		1
新潟県立看護	1		1	岐阜聖徳学園	2		2
岐阜薬科		1	1	静岡文化芸術	1		1
山梨県立	1		1	星城	1		1
静岡県立		1	1	愛知学院	1		1
公立大学合計	19	6	25	中京	3	1	4
国公立大学合計	107	38	145	中部		3	3
国立短大	現役生	浪人生	合計	鈴鹿医療科学	1	1	2
長野県短大	1		1	日本福祉	2	1	3
国公立短大合計	1		1	藤田保健衛生	1	1	2
私立大学	現役生	浪人生	合計	長浜バイオ	3	1	4
国際医療福祉	4	17	21	南山	2		2
日本赤十字秋田	1		1	名城	1		1
東北薬科		2	2	京都外国語	1		1
自治医大		1	1	京都女子	2	1	3
高崎健康福祉	1		1	京都薬科		1	1
獨協	4		4	同志社		3	3
文教		1	1	同志社女子	3	1	4
文京学院	1		1	花園		1	1
千葉工業	2		2	立命館	8	7	15
平成国際		1	1	近畿		1	1
目白	1		1	関西	1	2	3
埼玉学園	1		1	関西学院	1		1
東京医療保健	1		1	倉敷芸術科学		1	1
青山学院	9	4	13	私立大合計	217	179	396
学習院	1	1	2	私立短大	現役生	浪人生	合計
北里	3	6	9	青山学院女子短大	1		1
共立女子	1		1	私立短大合計	1		1
杏林	1	2	3	専門各種学校	現役生	浪人生	合計
慶應義塾	4	5	9	諏訪日赤看護専門学校	1		1
工学院	1		1	長野赤十字看護	1		1
國學院	1	2	3	長野医療技術	1		1
国士館	1		1	専門各種学校合計	3		3
駒澤	3	2	5	現役進学率			
実践女子	2		2	卒業生数	241 人		
芝浦工業	6	3	9	就職者数	0		
順天堂		1	1	進学者数	172 人		
上智		2	2	進学率	71.40%		
昭和薬科	2	5	7				
昭和女子	1		1				
成蹊	1	1	2				



一瞬だが活発に動いた今年のオーロラ

心にした研修、さらにはその間を縫って1人1テーマの課題探究の観測や実験などを行った。

今年は昨年度よりさらに太陽活動(従ってオーロラも)が穏やかな時期に当たってしまい、さらに渡米前の天気予報も全日雪で、オーロラどころか星空も全く見えないかもしれない状況であった。しかし幸いなことに、全部で12時間に及ぶ観測中5分だけではあったが活発に動くオーロラを北の空に見ることができた。オーロラが見られないことを覚悟していた生徒たちからは大歓声が上がった。きっとこの感動は、自然相手の観測の困難さとともに彼らの心に刻み込まれたことだろう。

平成 20 年度末 教職員人事移動

転・退職職員

新任職員

氏名	転出先等	教科	氏名	前任校等
細田 直史	諏訪実業高	教頭	石城 正志	高校教育課
矢口 憲生	木曽青峰高	国語	竹内はるか	丸子修学館高
小澤 誠	岡谷南高	社会	二木 明	木曽・木曽青峰高
			小嶋 薫	阿智高
藤澤 幹彦	富士見高	数学	矢田 敏明	塩尻志学館高
竹澤 愛子	岡谷南高・諏訪二葉高		林 浩一郎	松本美須ヶ丘高
清水 久樹	屋代高	理科	櫻井 珠美	退職
久松 俊雄	茅野高・諏訪二葉高			
小笠原健一	退職	体育	小原 国幸	木曽山林高
		芸術	萩原 梓	
水野 真帆	退職	家庭	五味 仁美	復職
細野 勇治	退職	事務長	山崎 典英	県庁企画部
高井 茂	諏訪湖健康学園	事務	柳平 信夫	伊那建設事務所

やさしさをぬくまのおもてなし

政府登録国際観光旅館



代表取締役社長 山崎 壯一(51回)

社長 室長 山崎 滯子(56回)

〒392-0027 諏訪市湖岸通り3-3-10 TEL0266 (58) 8000

平成 20 年度
諏訪清陵高校同窓会
会務報告

4. 4 諏訪清陵高校第 114 回生入学式
新入生 245 名 (内女子 105 名) 林会長祝辞
○新入生に校歌 CD・ビデオ『清水ヶ丘にうたう』を贈る
○4月1日 第 30 代校長篠原秀郷先生を名誉会長として迎える
4. 17 物故会員並びに道志社先輩慰霊法要
11:00 林会長ほか 23 名参列 (地藏寺)
4. 18 『同窓会報』編集・発送に関して
打合せ会 13:00 75 回生編集委員・事務局長 (清陵会館)
4. 19 上伊那支部総会 15:30 林会長・篠原学校長出席 (辰野パークホテル)
5. 9 (財)諏訪清陵会会計監査・同窓会会計監査 14:00 矢崎斉男監事・河西節郎監事・今井副会長・松下副会長・細田教頭・石田清陵会書記・事務局長 (清陵会館)
5. 12 『同窓会報』発送に関して打合せ会 13:30 75 回生編集委員・事務局長 (清陵会館)
5. 22 本会『定期総会』・『同窓会報』打合せ会 14:00 75 回生・事務局長 (清陵会館)
5. 23 『同窓会報』第 34 号発送作業 13:30
○75 回生、母校 1 年生および学校同窓会関係職員の協力により 16,665 部を発送
5. 26 (財)諏訪清陵会の事業・予算に関して打合わせ会 15:30 細田教頭・今井副会長・石田清陵会書記・事務局長 (清陵会館)
5. 31 (財)諏訪清陵会理事会・評議員会 11:30 (母校会議室)
○平成 19 年度事業報告・収支決算の承認、公益法人制度改革に向けて、その他同窓会常任幹事会 13:30 (清陵会館)
○幹事会提出議案審議
同窓会幹事会 15:30 (清陵会館)
○平成 19 年度事業・各種会計決算承認、平成 20 年度事業案・予算案承認、三澤文庫整備事業、母校を支援する委員会
懇親会 17:20 (清陵会館)
6. 23 高校再編計画に伴う母校の将来に関して意見交換会 16:30 学校・PTA・同窓会等の各代表者 (青陵会館)
6. 27 定期総会準備会 19:00 75 回生・今井副会長・事務局長 (ホテル紅や)
6. 28 平成 20 年度諏訪清陵高校同窓会定期総会 13:30 ~ (ホテル紅や)
○平成 19 年度会務・会計 (一般・特別・

クラブ) 報告、名簿会計決算報告、監査報告、平成 20 年度事業計画・予算などの承認。三澤先生記念文庫整備事業、(財)諏訪清陵会、母校の発展を支援する会、その他〔議長:上島武関西支部長〕

- 役員改選 林尚孝会長・岩田昌久副会長が退任、新会長に松下勲 (59 回)、新副会長に上島武 (57 回)、小川勝嗣 (59 回)、矢崎和広 (68 回) を選任、茅野實 (52 回)、今井正喜 (58 回)、生越万理子 (66 回) の各副会長および矢崎斉男 (51 回)、河西節郎 (52 回) の両監事は再任

記念講演「明日の諏訪を考える」

パネリスト: 清水澄原村長 (57 回)、矢嶋民雄富士見町長 (57 回)、今井竜五岡谷市長 (74 回)、柳平千代一茅野市長 (75 回)

コーディネーター: 北村卓也 (75 回)

懇親会 17:10 (ホテル紅や)

オープニング: 清陵 OB スペシャルジャズバンド

〔当番幹事 75 回生、次期当番幹事 76 回生、サブ幹事 85・95 回生〕

9. 5 母校の将来に関して現状と意見交換会 16:00 学校・PTA・同窓会等の各代表者 (清陵会館)

10. 15 母校「湖周マラソン」OB 25 名参加終了後、緑水荘にて慰労懇親会 今井副会長出席

10. 17 東京支部 (東京清陵会) 総会 18:00 松下会長・細田教頭出席 (アルカディア市ヶ谷)

10. 24 当番幹事学年引継ぎ会 (75 回生から 76 回生へ) 19:00 松下会長・事務局長出席 (仙岳)

10. 27 21 年度定期総会・同窓会報に関して打合せ会 76 回生・事務局長 13:00 (清陵会館)

11. 11 (財)諏訪清陵会の今後に関して、松下会長・今井副会長が県教委担当者と打合せ (県庁)

11. 14 諏訪支部総会 18:00 松下会長・篠原学校長・細田教頭出席 (諏訪シティホテル成田屋)

○石城祐吉支部長が退任し、山崎晃氏 (64 回) 就任

11. 29 本部役員 (三役) 会 14:00 (清陵会館)

12. 3 母校の将来に関して意見交換会 13:00 松下会長・今井副会長・篠原学校長・古原前学校長・事務局長 (清陵会館)

12. 12 『同窓会報』第 35 号に関して打合せ会 13:30 76 回生・事務局長 (清陵会館)

12. 18 母校の将来に関して意見交換会

14:00 松下会長・今井副会長・篠原学校長・古原前学校長・細野諏訪市教育長・事務局長 (清陵会館)

12. 22 「山本喜市記念碑保存会」役員会 16:00 (仙岳)

2. 2 (財)諏訪清陵会に関して打合せ会 (2.14 役員会に向けて) 14:00 細田教頭・今井副会長・石田清陵会書記・事務局長 (清陵会館)

2. 7 東海支部総会 11:00 松下会長出席 (名古屋キャッスルプラザ)

〃 茅野支部総会 15:30 今井副会長・篠原学校長出席 (サンパレス)

2. 14 (財)諏訪清陵会理事会・評議員会 11:30 (母校会議室)

○平成 21 年度事業計画案、収支予算案の件、公益法人制度改革に向けて、その他同窓会常任幹事会 13:30 (清陵会館)

○幹事会への提出議案審議

同窓会幹事会 15:30 (清陵会館)

○本会の役員に関して、母校の発展を支援する会、母校の土曜講座「自反会」への支援、三澤文庫整備事業と『三澤勝衛著作集』刊行、平成 21 年度定期総会と同窓会報、その他

懇親会 17:30 (清陵会館)

2. 15 富士見支部総会 18:00 松下会長・篠原学校長出席 (味彩)

○小池博之支部長が退任し、小林長吉氏 (61 回) 就任

2. 20 『同窓会報』第 35 号に関して打合せ会 13:30 76 回生・事務局長 (清陵会館)

〃 北信支部総会 18:00 松下会長 (ホテル国際 21)

2. 22 関西支部総会 11:00 松下会長・篠原学校長出席 (ホテル阪神)

2. 27 岡谷支部総会 18:30 松下会長・細田教頭出席 (ホテル岡谷)

3. 1 母校第 112 回生卒業式 卒業生 241 名 (内女子 107 名) 松下会長祝辞

○同窓会から会長のメッセージを添えて卒業記念品として印鑑セットを贈呈

3. 7 下諏訪支部総会 18:00 松下会長・篠原学校長出席 (ぎん月)

3. 9 新入会員 (新入生) の入会金・終身会費収納について打合せ会 14:00 松下会長・今井副会長・河西監事・事務局長 (清陵会館)

3. 13 『同窓会報』第 35 号に関して打合せ会 15:00 76 回生・事務局長 (清陵会館)

3. 24 母校転任職員送別会 18:00 松下会長出席 (浜の湯)

○同窓会より饗別 (細田直史教頭・細野勇治事務長他 9 名)

他 三澤先生記念文庫の整備作業を年間を通じて随時実施

平成 20 年度 同窓会一般会計決算報告

収入総額	8,732,562 円
支出総額	7,312,361 円
差引残高	1,420,201 円（平成 21 年度へ繰越）

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
前年度繰越金	1,351,654	1,351,654	0	
入 会 金	1,225,000	1,230,000	5,000	5,000 円× 246 名
終 身 会 費	4,900,000	4,920,000	20,000	20,000 円× 246 名
基本財産収入	150,000	147,179	- 2,821	定期預金利息
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	110 周年特別会計より
雑 収 入	50,000	83,729	33,729	普通預金利息,CD・100 年史・名簿等売上金,他
合 計	8,676,654	8,732,562	55,908	

支出の部 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
会 議 費	250,000	172,207	- 77,793	役員会,慰霊法要等
総 会 費	350,000	323,810	- 26,190	運営費,資料作成費,広告代,他
旅 費	700,000	484,270	- 215,730	役員会,役員出張旅費等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与（事務局長）
需 要 費	120,000	87,750	- 32,250	新聞代,事務用品等
役 務 費	270,000	287,498	17,498	電話料,郵送料,LCV - NET 利用料,他
慶 弔 費	850,000	702,151	- 147,849	支部総会祝儀,餞別,弔電,広告代,他
記 念 品 費	200,000	168,700	- 31,300	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報(190 万円),清陵会(200 万円),会館維持 (5 万円)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,506,654	655,975	- 850,679	学校案内冊子・DVD 作成補助,アラスカ研修補助,他
合 計	8,676,654	7,312,361	- 1,364,293	

平成 21 年度 同窓会一般会計予算書（案）

収入総額	8,830,581 円
支出総額	8,830,581 円
差引残高	0 円

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
前年度繰越金	1,420,201	1,351,654	68,547	
入 会 金	1,205,000	1,225,000	- 20,000	5,000 円× 241 名
終 身 会 費	4,820,000	4,900,000	- 80,000	20,000 円× 241 名
基本財産収入	130,000	150,000	- 20,000	定期預金利息
繰 入 金	1,205,380	1,000,000	205,380	110 周年特別会計より
雑 収 入	50,000	50,000	0	普通預金利息,CD・100 年史売上金,他
合 計	8,830,581	8,676,654	153,927	

支出の部 (単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減額	備 考
会 議 費	220,000	250,000	- 30,000	役員会,慰霊法要等
総 会 費	350,000	350,000	0	運営費,資料印刷費,広告代,他
旅 費	600,000	700,000	- 100,000	役員会,役員出張旅費等
人 件 費	480,000	480,000	0	給与（事務局長）
需 要 費	100,000	120,000	- 20,000	新聞代,事務用品等
役 務 費	280,000	270,000	10,000	電話料,郵送料,LCV - NET 接続・利用料,他
慶 弔 費	850,000	850,000	0	支部総会祝儀,餞別,弔電,広告代,他
記 念 品 費	180,000	200,000	- 20,000	卒業生への記念品代
繰 出 金	3,950,000	3,950,000	0	会報(190 万円),清陵会(200 万円),会館維持 (5 万円)
基金繰出金	0	0	0	
備 品 費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,820,581	1,506,654	313,927	
合 計	8,830,581	8,676,654	153,927	

諏訪清陵高校同窓会「基本財産」目録

基本財産 54,000,000 円	
（内訳） 定期預金	諏訪信用金庫 44,000,000 円
	八十二銀行 10,000,000 円

平成 20 年度
同窓会 110 周年特別会計決算報告
（平成 20 年 4 月 1 日から 21 年 3 月 31 日）

収入額	2,730,725 円
支出額	1,525,345 円
差引残高	1,205,380 円（平成 21 年度一般会計へ）

収入の部		支出の部		備考
繰越金	2,727,774	三澤文庫	33,000	
利息	2,951	入学記念 DVD	492,345	
		繰出金	1,000,000	一般会計へ
合 計	2,730,725	合 計	1,525,345	

平成 20 年度
「清陵会館」維持会計決算報告
（平成 20 年 4 月 1 日から 21 年 3 月 31 日）

収入額	967,320 円（繰越金, 繰入金, 利息）
支出額	0 円
差引残高	967,320 円（平成 21 年度へ繰越）

平成 20 年度
「同窓会報」特別会計決算報告
（平成 20 年 4 月 1 日から 21 年 3 月 31 日）

収入額	2,503,125 円 （繰越金, 一般会計より繰入金, 広告収入等）
支出額	2,248,475 円 （会報 34 号編集印刷費, 発送費）
差引残高	254,650 円 （平成 21 年度へ繰越）

清陵高校クラブ後援会 (3 者) 会計報告 (PTA・同窓会・学友会)

平成 9 年度に PTA・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ後援会」も発足以来 12 年を経過しました。同窓会からは会員各位のご理解を得るなか、この 12 年間に 3093 万円の援助を頂いてまいりました。

平成 20 年度は、106 の大会に延べ 1700 余名の生徒が“清陵”の名を背負って各種大会に参加し、頑張っておりました。

中でも、北信越大会には、端艇部、陸上部、水泳部、かるた部が、また全国大会には、端艇部、スケート部、古典ギター部、かるた部が出場しました。端艇部はインターハイにおいて女子クオドルプル 3 位、古典ギター部が優秀賞・全国知事会賞・大阪市長賞を受賞するなど、栄誉ある成績を収めることができました。

その他、各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施いたしました。

なお、すでに各クラブ・同好会とも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引き続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(学校事務長・細野勇治)

平成 20 年度 クラブ活動後援会 (3 者) 会計決算

収入総額	10,501,218 円
支出総額	9,505,573 円
差引残高	995,645 円

収入の部 (単位: 円)

科 目	予算額	収入済額	比較増減
繰 入 金	9,090,000	9,090,000	0
県 等 補 助 金	663,000	1,150,600	270,600
雑 収 入	101	13,719	13,618
繰 越 金	246,899	246,899	0
合 計	10,000,000	10,501,218	284,218

支出の部 (単位: 円)

科 目	予算額	支出済額	比較増減
生 徒 遠 征 費	6,830,000	6,246,248	583,752
大 会 参 加 費	1,500,000	1,680,200	0
登 録 料	800,000	738,000	62,000
施 設 使 用 料	800,000	836,800	0
事 務 費	20,000	4,325	15,675
予 備 費	50,000	0	50,000
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	9,505,573	711,427

清陵高校クラブ活動同窓会後援会への入会のご案内

平成 9 年度の定期総会において「母校の全てのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足致しました。

平成 9 年度からの 5 年間 (第 1 次) に 1,730 名から協力頂き、1,244 万円を学校へ。また、引き続き平成 14 年度からの 5 年間 (第 2 次) でも、1,701 名の協力を頂き、1,252 万円を学校へ。継続して平成 19 年度から第 3 次に入っておりますが、19 年度に 302 万円、20 年度に 295 万円を母校に贈ることができました。ご協力ありがとうございました。

毎年この『会報』発送の折に会費 (5 年分・10,000 円) のご協力を頂きたく振込取扱票 (郵便振替用紙) を同封しておりますが、残念ながら最近では入会者が減少の傾向にあります。文武両道を掲げて活動している後輩のために是非ともご協力を切にお願い致します。なお、平成 20 年度に会費 (入会) を頂いた方の数は次頁の表の通りです。

ご送金方法

◇同封の郵便振替用紙でお願いします。(手数料無料)

◇ご都合で 5 年分一括でない場合は金額を訂正し捺印して下さい。(1 年分でも結構です)

◇銀行振込の場合は下記口座へお願い致します。手数料はご負担頂ければ幸いです。

(宛先) 八十二銀行諏訪支店 普通 689 - 629

諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944

※銀行振込の場合は差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてからお名前をご記入下さい。(例「76 セイリョウ タロウ」)

平成 20 年度
諏訪清陵高校クラブ活動
同窓会後援会会計決算報告
(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

収入総額	7,208,380 円
支出総額	3,004,705 円
差引残高	4,203,675 円 (平成 21 年度へ繰越)

収入の部 (単位: 円)

科 目	収入済額	備考
繰 越 金	4,708,069	前年度より
会 費	2,483,920	252 名
繰 入 金	0	定期預金取崩し
雑 収 入	16,391	預金利息
合 計	7,208,380	

支出の部 (単位: 円)

科 目	支出済額	備考
拠 出 金	2,950,000	学校後援会へ
需 用 費	54,705	振替用紙印刷代
合 計	3,004,705	

諏訪清陵高校クラブ活動 同窓会後援会基金 (平成 21 年 4 月 2 日現在・単位: 円)					
種 類	預入先	金 額	利率	期間	満期日
期日指定定期	諏訪信用金庫	3,000,000	0.200%	1 年	H22.4.2
〃	〃	1,400,000	〃	〃	〃
合 計		4,400,000			

クラブ後援会会員芳名 (敬称略)

以下の名簿は平成21年4月1日現在、クラブ活動後援会会費期限5年分をお振り込み下さっている方々です。従って平成16年度中に振り込まれた方は、平成20年3月31日を以て5年間を終了致しましたので、この名簿には記載されておりません。ぜひ新たに入会(お振込)をお願い致します。

29 今井 功	40 伊藤 豊次	44 小口 成人	47 松田 庸夫	50 秋山 宣夫	51 山川 英一	56 宮本 卷	58 小林 英雄	59 細野 祐
30 中島 和市	40 岩波 重吉	44 河西 謙一	47 翠川 昭久	50 伊藤 友彦	52 鮎沢 晋次郎	56 望月 均	58 小林 秀文	59 松沢 亮
31 林 六美	40 小口 多聞	44 川村 博俊	47 宮坂 正昭	50 岩田 昌久	52 伊藤 公夫	56 矢島 孝次	58 小松 昭	59 松下 勲
31 宮坂 水穂	40 加々見一郎	44 小泉 孝之	47 矢島 廣人	50 岩波 貞夫	52 今井 文人	56 山崎 藩子	58 小松 敏郎	59 丸山 茂夫
32 久保田 力	40 菊池 武徳	44 土田 眞	48 伊藤 順一	50 牛山 博美	52 牛尼 俊樹	56 渡部 清	58 小松 英夫	59 宮沢平八郎
33 伊藤 文夫	40 野口 朝一	44 新村 恒雄	48 伊藤 恒好	50 小坂 幸三	52 牛山 剛	57 天野 丈久	58 繁宮 伯行	59 矢崎 邦彦
34 伊藤 寅視	40 花岡 三郎	44 保延 道夫	48 小口 一	50 柿澤 重喜	52 浦野 実	57 池田 賜恩	58 瀬戸 徳一	59 山崎 雄二
35 大宮 一朗	40 林 卓郎	44 原 幸宜	48 金井 恒巳	50 片岡 一郎	52 金松 正也	57 岩垂 弘	58 千代 務	59 山田 潔
35 小林翰詩郎	40 松沢 一夫	44 原 敏	48 木下 芳英	50 小池 脩司	52 北原 幹雄	57 岡田 茂	58 高橋 勇夫	60 赤羽 英勝
35 中山 久吉	40 松沢 弘	44 藤森 茂一	48 小池 岩雄	50 小林 重治	52 小松 寛光	57 荻野 浩	58 田中 得一	60 一ノ瀬五十志
35 原 親夫	40 宮坂 有勝	44 丸山 数馬	48 小池 賢	50 駒井 進	52 篠原 剛	57 片倉 新平	58 茅野 充男	60 今井 将隆
35 増沢 一男	41 伊藤 博之	44 岡岡 音平	48 小島 安	50 小松 楓芳	52 清水 忠義	57 小林 俊光	58 中澤 正衛	60 植松 峯夫
35 宮坂 廣雄	41 小口 俊弘	45 今井 保徳	48 永由 利弘	50 五味 郁夫	52 白川 太一	57 五味 瑞治	58 名取 清次	60 牛山 圭吾
35 矢崎 秀彦	41 小池 正衛	45 久保 光章	48 林 五平	50 五味 隆俊	52 田上 明	57 薩摩林貞美	58 名取 次夫	60 小川 浩史
35 山田 六一	41 小松 正弘	45 小泉 善一	48 平島 昭	50 白川 栄一	52 茅野 實	57 佐野川日出雄	58 濱 實	60 加々見和好
35 渡辺 長雄	41 小松 益美	45 小平 恭	48 藤森 正好	50 関 伊助	52 友野 弘	57 篠原 康夫	58 林 秀剛	60 河西 千広
36 石壁正一郎	41 武田 博夫	45 高木 満	48 松沢 留一	50 武井 秀夫	52 中村 繁之	57 白田 充	58 原田 真弓	60 笠原 三蔵
36 窪田十徳	41 中村 守利	45 林 淳平	48 両角 喜作	50 竹村 一司	52 名取 雄祐	57 武居 伸一	58 樋口 敏夫	60 笠原 文武
36 熊谷 久志	41 浜 亥三男	45 原 義郎	48 矢崎 文彦	50 田中喜代志	52 波多 秀夫	57 立石 邦久	58 古畑 喜博	60 鎌倉 剛一
36 田中不二男	41 増澤 康正	45 原藤 卓郎	48 山岡 正邦	50 根橋 郁雄	52 林 尚孝	57 田中 邦久	58 御園 廣貴	60 加倉 昂
36 中村 清寿	41 宮沢 七郎	45 松岡 武文	48 山村 泰彦	50 浜 邦夫	52 堀田 満	57 田中 高	58 宮坂 栄治	60 菊池 敏一
36 原 孝	41 百瀬 貞夫	45 宮坂 文雄	48 渡辺 誠	50 平林 昭夫	52 三枝 健男	57 茅野 嘉利	58 宮坂喜代司	60 北原 本夫
36 古厩 良平	41 柳澤 和夫	45 村木 孝平	49 会津 洋	50 藤森 千弘	52 溝口 甫	57 塚原 重雄	58 宮坂 健二	60 久保田一夫
36 矢崎 碩一	41 柳澤 武康	45 矢島 利一	49 上原 秀秋	50 藤森 睦美	52 宮坂 和茂	57 土橋 健夫	58 矢嶋 聡	60 小平 徳次
37 牛山 励	41 柳澤理一郎	45 柳澤 英次	49 植松 芳彦	50 藤森 元博	52 村田 實	57 中澤 富夫	58 山口 宗彦	60 小平 利昌
37 後町 良定	42 岩波 松美	46 今野 広久	49 小河原竜太郎	50 宮坂 哲夫	52 米沢 時雄	57 西山 郁夫	58 山田 照雄	60 小川 宏
37 関 廣視	42 小口 國夫	46 小川 善弘	49 小沢 裕	50 宮坂 弘三	52 米澤 朝宗	57 浜 有	58 吉田 嵩	60 小林 智昭
37 武井 清吉	42 小口 千晴	46 小口 久市	49 笠原 俊彦	50 宮坂 芳久	55 小林 誠三	57 樋口 祐三	59 朝倉 周一	60 小林 光
37 田中 克郎	42 小口 尚弥	46 小口 祐利	49 片瀬 豊	50 宮坂 力夫	55 牛山 一	57 日野 喜之	59 伊藤 鴻介	60 小松 寛之
37 藤森 要吉	42 河西 計介	46 帯川 藤夫	49 木見尻康彦	50 三輪 尚文	55 太田 弘道	57 藤田 吉蔵	59 伊藤 忠三	60 五味 章次
37 宮沢 康夫	42 片桐 好	46 北澤 興司	49 久保田 貢	50 村上 賢次	55 上條 菅雄	57 牧 庄一	59 伊東 立生	60 近藤 信也
37 矢島 善一	42 菊池 貞衛	46 小林龍太郎	49 小池 久	50 吉田 守	55 小松 清一	57 増澤 良夫	59 牛山 孝	60 笹岡 拓雄
38 伊東 義人	42 工藤 健	46 小松 五郎	49 後藤 隆	51 今井 公彦	55 西澤 賢一	57 溝口 藤雄	59 大久保数夫	60 佐藤 宏
38 小原 文雄	42 小平 健	46 齊木 堯	49 白鳥 貞幸	51 今井 好昭	56 飯田 有年	57 宮澤 功吉	59 小川 勝嗣	60 篠原 健
38 小林 克己	42 小松 廣	46 齋藤 清一	49 代田 繁夫	51 小口 一郎	56 石森美代子	57 矢嶋 民雄	59 小川 邦夫	60 給田 英哉
38 小松 雅雄	42 錦見 高弘	46 滝沢 潔	49 鈴木 邦彦	51 金松 直也	56 伊藤 安幸	57 横田 健次	59 小口 剛	60 高木 祥勝
38 立木 正純	42 溝口 勝弘	46 武井 厚隆	49 土田健次郎	51 金子 隆一	56 大橋 博康	58 赤羽 正臣	59 小澤 廣利	60 田口 稔
38 樋口 安久	42 宮坂 正一	46 武井 敏男	49 土橋 達也	51 熊谷 和雄	56 小川 明人	58 有賀 四郎	59 加賀美久高	60 田中 拓二
38 藤森 千史	42 宮坂 芳行	46 田中一太郎	49 林 厚彦	51 小池 春次	56 小口 勝次	58 飯田 節夫	59 金子 政喜	60 轟 道彦
38 前田時太郎	42 両角 節	46 増澤喜美夫	49 林 忠男	51 小松 良樹	56 小坂 弘	58 伊藤 彰彦	59 小岩井邦弘	60 長田 敦夫
38 矢ヶ崎孝雄	42 矢崎 正彦	46 宮坂 義三	49 林 徹	51 佐藤 光義	56 北原 良郷	58 伊藤 長城	59 小林 邦明	60 永田 郷雄
39 井上 村吉	42 山田 保	46 矢島 昭	49 平出 隆男	51 関 光雄	56 小宮山啓一朗	58 伊藤 弘	59 小松 巖	60 名取 正富
39 大宮 直治	42 山田 藤雄	47 浅川 孝典	49 藤森 昌美	51 田中 秀夫	56 酒井 利男	58 伊藤 隆一	59 小川 守	60 野竹 虎夫
39 栗林 松治	43 青沼 武樹	47 有賀 公雄	49 松木 庄師	51 内藤 昌	56 三溝 善一	58 今井 稔子	59 白倉 徹哉	60 浜 勝彦
39 小松 政重	43 今井五十二	47 井上 哲男	49 宮坂 悦司	51 林 将雄	56 武居 富夫	58 内山 善一	59 城取 俊昭	60 平澤 澄雄
39 清水 方平	43 栗林 正賀	47 今井 健彦	49 宮坂 敏彦	51 平出 進	56 武居 浩明	58 大西 暲三	59 千野 光久	60 國男 和弘
39 清水 康弘	43 小松 昌平	47 小澤昭一朗	49 宮坂 久臣	51 藤原 健一	56 田中 泰次	58 小口 正	59 津金 勝巳	60 藤森 弘
39 田中 夏樹	43 志賀 平昇	47 倉島 武男	49 向山 幸男	51 藤森 定義	56 土橋 平治	58 小澤 吉郎	59 内藤 好昭	60 藤森 晃
39 永井 俊夫	43 樋口 國男	47 小平 信一	49 両角 俊美	51 堀内 昭八	56 淵上 良子	58 笠原 忠夫	59 長瀬 价美	60 増沢 豊久
39 永田 暢男	43 前島 甲平	47 小林 秀春	49 矢ヶ崎英一	51 三村 俊二	56 降幡 照子	58 木下 博介	59 永田 弘幸	60 松澤 功
39 平林 治吉	44 伊藤 裕人	47 小林 正樹	49 山岡 利行	51 宮坂 祐次	56 保科 正明	58 熊谷 致	59 中山 篤	60 丸茂 敬昌
39 藤森 久雄	44 伊藤 善光	47 小松 誠	49 山田 早苗	51 矢崎 斉男	56 堀田 俊夫	58 河野瑩智子	59 林 芳江	60 丸山 純夫
39 細田 圭一	44 岩波 篤雄	47 原 尚道	49 山田 佳也	51 矢島 孝	56 松見 佳樹	58 小平 伯満	59 藤原 康二	60 宮澤 政文
39 宮坂 英夫	44 江口 秀男	47 平出 康彦	49 依田 武	51 柳平 直明	56 宮下 敬三	58 小林 常晃	59 藤森 忠治	

医療法人

三井歯科医院

理事長 三井 建三 (76回)

理 事 三井多美子 (76回)

〒399-0214

諏訪郡富士見町落合9984

TEL 0266-62-5965

浅川クリニック

内科・循環器科

院長 浅川 清 (76回)

〒391-0011

茅野市玉川3080-3

TEL 0266-82-6813

FAX 0266-82-6817

大滝化粧品店

有限会社 大滝商店

代表取締役 大滝 啓吉 (76回)

・中央通り本店

岡谷市中央町2-3-6 TEL 23-5136

・ラオカヤ店

岡谷市中央町1-1-1 TEL 22-3087

60 矢崎清太郎	63 有賀 一夫	65 西沢 卷夫	69 小松 郁俊	72 永田 修平	77 小林 祥一	83 羽田 俊彦	91 藤森 完一	106 清水 奈緒
60 柳沢 忠志	63 遠藤 博万	65 浜 一吉	69 榎東 明	72 根橋 清	77 小林 初彦	83 伏見 升成	92 笠原 健一	106 武井 友史
60 弓削 裕和	63 尾澤 弘久	65 浜 裕幸	69 酒井 和幸	72 御子柴 均	77 小松 教幸	83 藤森 修一	92 小竹 直子	106 中村英理子
60 横内 仁	63 河西 武彦	65 原 英充	69 篠崎 富男	72 山下 久盛	77 武居 丈二	83 松崎 任宏	92 内藤 真実	106 藤森 智矢
60 吉山 善博	63 笠原 政樹	65 広瀬 睦子	69 高山 猛英	72 山田多美枝	77 土橋 一郎	83 矢嶋 哲	92 新村 克英	106 宮坂 有意
60 菊池 功	63 金井 修	65 藤森 邦秀	69 武村 光秀	73 浅川 辰司	77 長田美保子	84 赤羽 武弘	92 矢島 隆	106 三好 吉起
61 赤沼 洋	63 金井 英雄	65 溝口 忠昭	69 茅野 勝彦	73 遠藤 茂	77 林 理之	84 赤羽 俊昭	93 五味 聖	107 小口真太郎
61 市川 澄渡	63 鎌倉 了	65 三井 嘉啓	69 津金 正典	73 遠藤 進	77 水戸川博明	84 今村 祐子	93 城取 英紀	107 川邊 美奈
61 伊東 章宏	63 小平 協	65 宮坂 孝康	69 中田 典昭	73 小口賢治郎	77 渡辺 恵祐	84 小口 理子	93 新村ゆかり	107 小松 佑介
61 牛山 俊	63 高木 鐵也	65 宮沢 健一	69 花岡 清二	73 小林 正和	78 大蔵 宏基	84 小池久美子	94 金井 かよ	107 花岡 有香
61 太田 龍朗	63 高木 義雄	65 柳沢 共榮	69 花岡 正	73 島羽 研二	78 田中 麻恵	84 田中 健	94 島田 輝彦	107 渡邊 香織
61 小川 文啓	63 竹本 正行	65 山崎 享子	69 浜 和雄	73 林 重男	78 金光 泉	84 西川 俊夫	95 鮎沢 学	108 朝貝亜寿沙
61 小口 智也	63 田中 祐昌	66 河合 三彦	69 比田井和子	73 平塚 唯史	78 釜洞 修一	84 原藤 健紀	95 小松 貴弘	108 梅澤 宏企
61 小澤 興	63 鶴巻 健彦	66 北原 東一	69 比田井昌英	73 堀田 文昭	78 北澤幹一郎	84 藤森 弘	95 高山 美歩	108 北出 一樹
61 片桐 清男	63 中村 好邦	66 小平 正八	69 福島 英雄	73 松木 敏博	78 桑原 誠	84 古舘千真規	95 中島 規貴	108 高月 昂
61 川村 昌平	63 牧 成治	66 徳永 昭輝	69 松澤 睦司	73 宮坂 和生	78 南保 勝美	85 細川 洋一	95 御園健一郎	108 小澤 駿
61 久保田 宏	63 松木 義文	66 常田 信行	69 宮坂 本勇	73 山口 和夫	78 矢島 修	84 宮坂 明史	96 上原 俊樹	108 小松 雅宙
61 小林 長吉	63 丸山 佳広	66 中村 俊夫	69 宮坂 幸芳	73 山田 雄一	78 芳沢 範朗	84 矢島 隆美	96 五味 弘行	108 島田 実幸
61 薩摩林 正	63 蜜澤 裕二	66 原 護	69 宮原 栄一	74 岩波 豊明	79 市瀬 章	84 八幡 純治	96 田中 雄一	108 竹澤 秀和
61 篠崎 知明	63 宮坂 尚利	66 樋口 宗司	69 武川 昌次	74 大滝 精一	79 伊藤 幾文	85 伊藤 孝一	96 浜 真由美	108 竹村 章子
61 下枝 晴彦	63 山田 善彦	66 藤森 英和	69 両角 雄一	74 小池 力	79 今井 博一	85 河西 孝信	96 平林 一也	108 津金みほろ
61 幸 京碩	63 横山 嘉一	66 藤森 元規	69 柳平 三雄	74 五味 克成	79 小口 高弘	85 五味 高義	97 池上 実	108 中村 好絵
61 鮎川 光則	63 吉田 紘	66 堀川 安久	69 山崎 卓	74 杉山 公宏	79 河西 一彦	85 立花 美香	97 伊藤 智章	108 平出恵利華
61 瀬戸 明彦	63 山田 勉男	66 松田 洋	69 渡辺 泰弘	74 土橋 英一	79 小坂 秀男	85 長田 里美	97 小坂 秀文	108 宮澤まどか
61 高見澤忠明	63 亙理美代子	66 丸茂 雅弘	70 小口 幸一	74 中山 夏樹	79 五味 稔典	85 永田 直也	97 藤森 綾	108 山田 恵介
61 土橋 勉	64 鮎沢 宏威	66 宮坂 勝之	70 小口 卓男	74 松縄 茂	79 五味 弘文	85 平出 健一	97 小池 春香	108 吉田 岳史
61 寺島 健司	64 北原 良樹	66 宮澤 正幸	70 加藤 隆夫	74 三井 常夫	79 高橋 則広	85 藤澤 和利	97 新村 好	108 渡邊 亮
61 野澤彰治郎	64 小口 寿夫	66 宮島 忠之	70 倉田 文秋	74 柳崎 智義	79 寺沢 茂	86 青木 裕子	97 山下 将国	109 安藤ゆづり
61 早川 次彦	64 小口 博義	66 米窪 修明	70 桑沢 隆文	74 柳沢 秀生	79 新村 融一	86 伊藤 久人	98 上野 朋彦	109 岩波 薫
61 平野 国政	64 小澤 俊	67 岩間大和子	70 小平 光治	75 伊藤 進	79 原 薫	86 今井 昭徳	98 後藤 孝史	109 牛山さゆり
61 堀川喜代太郎	64 河西 昭	67 落合 勝彦	70 小林 和男	75 伊藤 弘志	79 松沢 公夫	86 高橋みゆき	98 中島 克夫	109 川邊 直紀
61 丸茂 和夫	64 木川 史弘	67 笹岡 仟治	70 五味知佳士	75 大石 秀之	80 金井真一郎	86 武田 正利	98 矢沢 恵一	109 小池 慎
61 宮澤 三郎	64 久保田那一	67 関 敦子	70 渋谷 康海	75 栗林 利治	80 佐々木康夫	86 辻 清隆	98 山田 泰寛	109 小松 良大
61 宮沢 健	64 小泉 健二	67 武居 哲彦	70 進藤 政臣	75 田中 富久	80 辻 洋	86 土屋 治彦	99 青木 大輔	109 佐藤絵里奈
61 三輪 昭裕	64 五味 勝	67 中島 永人	70 竹森 公男	75 土橋 和彦	80 土橋 正明	86 中島 剛	99 小松 正彦	109 武井 洋史
61 横川 紀夫	64 清水 強	67 根橋 房司	70 藤森 廣幸	75 徳嵩 昇一	80 原田 信	86 原田 正明	100 朝倉 宏典	109 土橋 悟
62 秋田 英一	64 杉浦 信剛	67 林 武昭	70 藤森 行雄	75 浜 興治	80 原田 民雄	86 井出 健次	100 根本 和彦	109 原 耕平
62 朝比奈茂吉	64 武井 省吾	67 三浦 久	70 馬淵泰太郎	75 古舘 猛	80 溝口 到	87 土橋 智也	100 濱 裕之	109 吹附 綾乃
62 飯田 莊象	64 竹内 俊文	67 三井 敏彦	70 矢島 芳明	75 細田 直史	80 宮坂 哲雄	87 藤森 伸也	100 林 敬祐	109 藤澤 秀
62 大西 高司	64 千野 眞士	67 守矢 早苗	70 山田 厚	75 宮坂 通彦	80 百瀬 淳一	87 宮坂 玲子	101 牛山 育子	109 山崎 将一
62 今井 保寿	64 濱 齊	67 矢崎 太造	71 伊藤 洋一	75 宮下 和彦	80 両角 雅志	87 柳澤 泰	101 竹村 玲子	110 相原 龍
62 上原 俊春	64 増木 喜光	67 山崎 金男	71 加藤 博明	76 朝倉 義信	81 牛山 知明	88 倉科 和則	101 松倉 良介	110 青木 勇太
62 金子 浩之	64 丸茂 峰宏	68 赤羽 貞幸	71 金子 芳治	76 石井 和夫	81 笠原 直子	88 小林 大	102 笠原 茂佳	110 伊藤 誠悟
62 小松 道俊	64 宮沢 勇	68 伊藤 重利	71 小林 秀樹	76 小口 直彦	81 篠遠 秀樹	89 植松 秀生	102 小林 万真	110 片倉 正浩
62 塩澤 瑞人	64 宮澤 玄治	68 伊藤 博	71 近藤 知雄	76 春日 一夫	81 田中 輝明	89 岩原 直子	102 五味 花子	110 倉田 雅志
62 瀬澤 盛夫	64 山崎 智仁	68 牛山 和義	71 竹内 一	76 川上 孝	81 中野 則雄	89 小又 一宏	102 中根 伸昌	110 小松 昌平
62 田中 明雄	64 山田 巻義	68 大森 尚人	71 田畑加久司	76 小池 明朗	81 橋爪 俊明	89 関 淳一	102 松木 義成	110 小松 優規
62 中島 澄雄	64 渡辺 紹司	68 小口 和男	71 萩原 啓一	76 小平 憲良	81 矢島 俊樹	89 宮坂 賢一	103 折井 友彦	110 清水 啓一
62 長田 宏子	65 池田 昌純	68 小口 智惟	71 宮坂 敏郎	76 坂井 由美	81 山田 雅彦	89 両角 康典	103 越田 真二	110 白尾 貴司
62 中村 俊明	65 伊藤 連一	68 小沢 俊康	71 宮坂 久夫	76 田中 幸一	82 内山 茂晴	90 新井 直子	103 武井 佳子	110 田中 一平
62 永由 俊二	65 今井 忠雄	68 小林 史宣	71 宮下 信市	76 中島 真一	82 河西 仁	90 池上 明雄	103 竹村 信彦	110 花岡 辰行
62 浜 武秀	65 岡村 昭治	68 小松 順一	71 横内 保美	76 野口 幹夫	82 藤森真佐子	90 小河原綾子	103 山田 怜史	110 藤森 章浩
62 林 靖高	65 笠原 重治	68 佐々木建一	72 新井 滋平	76 花岡 博茂	82 増澤 宏昭	90 小河原一浩	104 園田 裕美	110 矢島 健志
62 平林 哲夫	65 木村 博	68 武井 春義	72 植松 昌弘	76 花岡 正明	82 宮坂 誠	90 濱 かおり	104 丸山 徹	111 矢島 健思
62 藤森 郁男	65 小林 俊徳	68 茅野 哲一	72 岡村 昇	76 林 友則	82 宮下 文利	90 濱 孝章	104 宮坂留理香	111 今井理実華
62 堀 浩泰	65 小林 三男	68 花岡 征好	72 河西 健雄	76 松田 昌幸	82 山崎 健二	90 宮坂実木子	105 小口佳納子	111 小池ひかり
62 増澤 廣志	65 五味 正明	68 宮原 友保	72 笠原 初雄	76 矢崎 敏臣	83 岩本 和久	90 百瀬 達雄	105 小林 大悟	111 小松 知世
62 宮坂 博通	65 田久保 昇	68 矢崎 和広	72 笠原 勇二	76 渡辺 修	83 菊池 俊樹	90 矢澤 勲	105 中村 貴帆	111 小松麻裕子
62 両角 晃一	65 田中 勝一	69 飯塚 敏彦	72 鎌倉 明徳	77 小口 武男	83 五味 弘昌	91 伊藤 大助	105 峰谷 匠子	
62 矢島 衛	65 田中 健雄	69 上田 典胤	72 熊崎 秀和	77 長田 正名	83 菅沼 昭彦	91 北沢 清二	106 牛山 聡	
62 吉田 貢	65 中野 明	69 上原 直樹	72 桑沢 元孝	77 春日 敏彦	83 関 聖	91 Karlieckさやか	106 笠原 鏡平	
63 荒木 信行	65 名取 武一	69 古原 正之	72 竹村 文男	77 北原 修	83 田中 妙	91 高田 佳彦	106 小松 嵩甫	

書籍・雑誌・教科書・文具・事務用品

矢崎書店

矢崎正典 (76回)

〒391-0002

長野県茅野市塚原1-1-20

TEL 0266-72-2992

FAX 0266-72-2981

[光熱量なら
クリエイティブホーム]

代表 小川新作 (76回)

設計 藤澤秀樹 (79回)

〒392-0015

諏訪市中洲福島3657-1

TEL (0266) 54-7767

FAX (0266) 54-7768

Email: info@creativehome.jp

ホームページ: http://creativehome.jp

眞丸眞興業有限会社

土木工事一式・産業廃棄物収集運搬処分
骨材生産販売 (砕石及 RC 砕石)・建設重機工事

代表取締役 小平憲良 (76回)

☎399-0211

本社 長野県諏訪郡富士見町富士見3301-3

TEL (0266) 62-2129

FAX (0266) 62-2360

富士見工場 (砕石・再生プラント)

霧ヶ峰工場 (砕石プラント)

平成20年度 定期総会の記

平成20年度定期総会は、梅雨のぐずついた天候が続く中、前夜までの雨も止む幸運に恵まれ、当日は31回生から99回生までの幅広い年代の多くの同窓生に参加していただきました。

第一部の定期総会は恒例に則り、女性司会者として75回生の鎧塚恵子さんが務めました。物故会員への黙祷の後、林尚孝同窓会長の挨拶があり、2期4年間の同窓会長を務めた中でも、特に110周年記念事業を無事に成し遂げたことに触れられ、会報をはじめとして今回の同窓会総会の準備に対し、当番幹事である我々75回生に対するねぎらいの言葉を頂戴いたしました。来賓として、本年度より校長に就任された篠原秀郷先生よりは棋士の羽生善治氏の言葉を引用し、清陵の伝統を踏まえうえて、新しい時代の感覚で現在の諸問題に対応するとの挨拶がありました。本年度は役員改選の年に当たり、会長に59回生の松下勲氏が推薦され、承認されました。松下新会長よりは清陵の教育改革、高校再編化などの問題に取り組む考えが示され、出席していた会員より熱い拍手が送られていました。

第二部では清水澄原村長(57回)、矢嶋民雄富士見町長(57回)、今井竜五岡谷市長(74回)、柳平千代一茅野市長(75回)の4首長が北村卓也君(75回)の司会でパネルディスカッションを行いました。清陵同窓のよしみもあって、終始和気藹々とした雰囲気の中で行われました。6市町村の合併に関しては地域ごとの温度差が感じられましたが、広域連合を活用することにより、事業コストの削減を図り、各々の市町村単独で特徴あ

る事業を推進したい意向が語られました。パネルディスカッション最後に箕輪町の平沢豊満町長(63回)よりご発言があり、第2部のパネルディスカッションが閉会となりました。

第3部の懇親会は「諏訪清陵高校OBスペシャルビッグバンド」の演奏が行われる中、林和彦君、五味一枝さんの司会で、柳平千代一君の開会挨拶で開演となりました。今回で退任された林尚孝同窓会長には和田ちま子さんより花束贈呈があり、宮坂久臣顧問の音頭で乾杯が行われました。会場には300席余りを用意しましたが、参加人数が予想以上となり、急遽、会場外のホールに75回生用の席を用意するといったハプニングもありましたが、各々のテーブルで話が弾み、大盛況でした。恒例の校歌歌唱は次期幹事の76回生の諸君が壇上にて大いに盛り上げてくれました。宴たけなわの中、林、松下新旧同窓会長の万歳にてお開きとなりました。我々75回生は、柳平学年幹事の音頭で紅や駐車場において「金色の民」の大音声を諏訪湖に向かって響かせ、来年の再会を誓い合いました。

稿を終わるにあたり、多数の同窓会員の皆様にご出席いただき、盛会のうちに終了できたことに対し、当番幹事として心より御礼申し上げます。

栗林利治(75回)



感謝のOBスペシャルジャズバンド

諏訪清陵高校卒業生の私が、OBバンドの一員として、定期総会で演奏することは夢のような話でした。楽器の経験がなく、音楽コンプレックスがあった私のサックス演奏は憧れで、育児が一段落した事を機に思い切って挑戦し始めていました。そんな折、母校のバンド結成の話を耳にし、憧れのジャズバンドの夢を胸に、参加させて頂きました。メンバーの方は経験豊富な人たちばかりで、本当に一緒にできるかと不安でしたが、結成から三か月の間とても優しく指導して下さいました。

初めての演奏は、前夜ライブハウスにて、大勢のOBの皆さんに囲まれた中で行われ、母校の絆の強さを感じました。そして翌日の定期総会では心地良いハーモニーを味わうことができました。演奏は無事終了したものの、このメンバーではこれで終わりかと思うと、さみしさが込み上げてきました。

最後に、このような機会を与えて頂いた皆様に感謝するとともに、これからもサックスを通じて「音楽」に関わっていけたらと思います。そしてなによりも音楽を通して「人」とのつながりを大切に生きていきたいです。

北原美鈴(86回)



三澤先生記念文庫の整備と三澤勝衛著作集の出版

平成17年、同窓会では創立110周年の記念事業の一つとして三澤先生記念文庫の整備が計画され、運営委員会が再編されて整備に取り組んできました。三澤文庫は設立され40年を経過し、保存されている先生の論文や資料も老朽化が進んでいる状況でしたが、まず内容保存の意味で、パソコンを導入して、それらのデジタル化、蔵書目録のデータベース化などを中心に整備を進めてきました。著書、論文、資料等のデジタル化、蔵書目録のデータベース作成などは、ほぼ一段落の状況です。

データベースの充実や、現物の保存、収納の仕方などは今後の研究課題です。また、パソコン中のデータは、今後も活用するためには、機材も含めて、継続的に維持管理をしていく必要もあります。110周年記念事業は19年度で一区切りとなりましたが、引き続き同窓会と学校の協力を得て、運営委員会を強化して整備を継続するとともに、文庫の日常の管理体制を整えていく必要があり、今後も色々な形でご協力いただければ幸いです。

三澤勝衛先生は、大正9年から昭和11年まで旧制諏訪中学校の教師でしたが、地表面に「風土」の言葉で示す明確な概念をあたえ、これを通して特有な郷土の発見を目指す地理研究と、当時は世界でもほとんど行われていない太陽黒点の左目失明までの13年余の継続観測で学界にその名を馳せています。転任3年目の大正11年には、諏訪中学校に「科学会」という理系の8部会をもつ学年縦割りの自主活動を主体とする研究組織を発足させ、自分は次々に学界に論文を発表、生徒には、やるからには未知の世界を目指せと発破をかけ、顧問としてその指導にあたりました。そして、旧制諏訪中学校・清陵高校の学問研究の伝統の基礎を築き、その面で多くの学界をリードする人材を輩出しています。

昭和12年8月18日、膨大な蔵書と生涯の念願であった執筆中の『信濃地理』の資料を残して享年52歳で逝去されました。宮坂醸造（真澄）の倉庫に散逸を逃れて保存されていた先生の蔵書、論文、資料等は、三澤家から同窓会に寄贈され、それをもとに先生の教えを受け、先生により人生の指針を与えられた多くの方々の方々の熱意で、死後28年目の昭和40年、母校校内に「三澤先生記

念文庫」が設立されました。

先生には『郷土地理の観方』（昭和6年・古今書院刊）、『新地理教育論』（昭和12年・古今書院刊）の二つの著書と120編余の論文がありますが、『新地理教育論』の一部や、その中の「風土産業」の章はいくつかの出版社から戦後も何回か出版されています。

ところで、昨年（平成20年）春、農業の雑誌などを刊行している社団法人農山漁村文化協会（農文協）から前記2冊の著書と十数編の論文を中心に全4巻の『三澤勝衛著作集』を刊行したいので協力願いたいとの申し出がありました。三澤文庫の整備の一つ柱に「風化しつつある三澤勝衛の精神の活性化」があのですが、幸い論文、資料等のデジタル化もほぼ終了しており、大変うれしいことですので、できるだけ協力することにいたしました。平成20年12月より1冊目の配本が始まっています。

三澤勝衛の著書や論文には、これからの地球の自然を見るうえで大切な多くの具体的な内容をもっています。旧制諏訪中学校・清陵高校で培われた精神もその中に色々な形で発見できると思われます。多くの方にご覧をいただければ幸いです。

三澤先生記念文庫運営委員長・金子佳正（51回）

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の諏訪湖マラソンOB・OG大会を下記により、母校の伝統行事に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月21日（水） 女子8時40分、男子9時スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約18km
3. 受 付 湖畔石彫公園のスタート地点 午前7時30分よりゼッケン受取り後スタート地点へ。終了後懇親会。
4. 参加費 3500円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断。

清陵湖周マラソンOB会

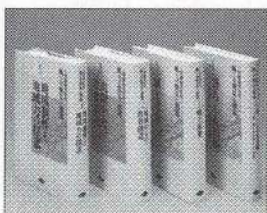
会 長 牛山 孝（59回）

問合先 原 英充（65回）Tel 0266-58-3547

会 計 唐沢千明（76回）

★三澤先生の志を、まわりの方々に知らせて下さい

三澤勝衛著作集 風土の発見と創造 全4巻 A5判・上製



長野県立諏訪中学の教師として「自分の目で見て自分の頭で考える」教育を実践しながら独自の〈風土学〉を構築。世界恐慌と地方の疲弊のなかで、「地域力」を生かした「風土産業」を提唱。今、活かしたい産業・経済再生の実践的指針。

第1巻 地域個性と地域力の探究 09年2月刊 6825円

第2巻 地域からの教育創造 既刊 8400円

第3巻 風土産業 既刊 6825円

第4巻 暮らしと景観、他 09年3月刊 7350円

●編集・解説執筆 清陵OB（68期生）木村信夫



三澤勝衛

明治18年～昭和12年

発行 農文協

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 TEL03-3585-1142 FAX03-3585-3668 （価格は税込）

支 部 活 動 報 告

関西支部

支部長・上島武 (57回) 記

◇平成20年度活動報告

第11回支部総会

平成20年2月23日・阪神百貨店グリーンルーム

出席者 = 52名

来賓 = 古原正之学校長・林尚孝同窓会長

サロンコンサート (ソプラノ独唱・尾崎比佐子さん)

懇親会と福引き

部会活動

ゴルフ部会 (2回)

歩こう会 (2回琵琶湖周辺万葉を尋ねる。富田林寺内町を歩く)

会報部会 (第13号・14号発行)

◇平成21年度活動

第12回支部総会

平成21年2月22日・ホテル阪神

来賓：篠原学校長、松下同窓会長

部会活動の継続・発展。支部人事の若干の若返りを。

東海支部

副支部長・武井久良 (59回) 記

2月7日、JR名古屋駅近くのキャッスルプラザで、第26回支部総会を開いた。出席は24人。会に先立って昨年、教育功労で叙勲を受けた来賓・松下勲同窓会長に、支部から記念品を贈った。

同じ時刻に茅野支部の総会が開かれたため、篠原秀郷学校長はそちらに回られて欠席された。松下会長から諏訪地方の教育水準が下がっている傾向にあるなどの実情や、中高一貫教育高校の新設構想などをうかがった。

会計報告などに続いて懇親会に移り、自己紹介や校歌の斉唱で盛り上がった。総会に先だって支部内の会員らから専門分野などの講演を聴くのが慣例。今回は5月から実施される裁判員制度について、名古屋高検公安部長の濱隆二氏 (72回) から「選ばれても心配無用、何の心配もいらない」と題する講演を聞いた。

林尚孝前同窓会長からも名大学長を務められた大先輩・故飯島宗一氏の話をしていただく予定だったが、都合で来られなくなり、会員を寂しがらせた。

小松支部長からは「百年に一度と言われる大不況の今こそ『質実剛健』の清陵魂で乗り切り、親睦を深めて支部を充実させよう」のゲキが飛んだ。

東京支部 (東京清陵会) 支部長・小川勝嗣 (59回) 記

平成20年度第42回総会・懇親会は10月17日『アルカディア市ヶ谷』にて、母校細田直史教頭先生、松下勲同窓会長をお迎えして開催されました。出席は大学生22名を含む197名。

今期は役員改選期で、以下の通り選任されました (任期2年)。会長 = 小川勝嗣 (59)、副会長 = 藤森宏一 (63)、金子充宏 (65)、生越万理子 (66)、会計幹事 = 有賀朝彦 (63)、監査幹事 = 今井恒夫 (57)、小林國利 (62)、事務局局長 = 平林千春 (69)、事務局次長 = 平林千義 (67)、大島道雄 (71)。

会報「東京清陵會だより」第19号を9月に発行、1990年以来110回を超える清陵勉強会の特集を行いました。総会・懇親会および会報発行など当番幹事学年75回生のご努力に負うところ大きく感謝申し上げます。

総会案内は3,851通発送しましたが返事の率が甚だ低く、また会費納入率の低さも長年の課題であり、会員の皆様のご協力を切にお願いする次第です。

「伊藤長七アーカイブス記念フォーラム」(2007.6.9)から1年にあたる6月7日、小諸にて寒水会総会を開き、五中OB・粕谷一希氏の講演および懇親会を行い、紫友同窓会、清陵同窓会、小諸寒水会から24名が参加しました。翌8日は諏訪に移動し、長七孫の伊藤博子さんも合流して、伊藤長七先生頌徳公園のほか木村岳風記念館、三澤文庫などを訪れました。頌徳公園では矢崎秀彦先生はじめ同窓生が参加され、三澤文庫では金子運営委員長にお世話になりました。

北信支部

下記のとおり支部総会を盛大に開催いたしました。

2009年2月20日午後6時・ホテル国際21

参加者 = 46名

来 賓 = 松下勲同窓会長

当日は、松下会長から、同窓会の活動状況、現在清陵

処方せん調剤 漢方薬

有限 二 葉 薬 局

会 長 井 上 彦 次 (42回)
会 計 浜 正 一 (70回)
薬剤師 井 上 優 (72回)
社 長 井 上 幸 彦 (84回)

〒392-0026 諏訪市大手1-3-2
TEL 0266-52-1242
FAX 0266-52-3460

不二屋代表取締役 新村 良雄 (四九回)

下諏訪町四ツ角 新村 隆 (八五回)

TEL (〇二六六) 二七七八五〇五
FAX (〇二六六) 二八七〇九五

諏訪名産 初霜

支部活動報告

高校が抱えている課題（松本地区等の高校へ諏訪地域の学生が進学していること等）スーパーサイエンスハイスクール等の高校の活動状況についてお話がありました。

また、茅野支部長からは、支部長の交代等について報告がありました。

上伊那支部

支部長・荻野浩（57回）記

当支部では、百花繚乱の平成20年4月19日（土）午後3時30分より、たつのパークホテルにて支部総会を開催しました。学校より篠原学校長、同窓会本部より林会長を来賓としてお迎えし、母校の近況についてご報告をいただきました。また林会長からは、母校110周年記念行事など、2期4年間の総括もされ、その労苦には頭の下がる思いがいたしました。

また記念講演では、竹淵修二氏（58回）により「伊那谷北部の古水系について」の講演をしていただきました。唐沢礫層を構成している礫の分析と古地図から伊那谷古水系の成り立ちや変遷について、貴重な資料やスライドを通して180万年ほど前の地殻変動にまで言及され、あらためて故郷の山河の姿をタイムスリップしてみることができました。

今年は32名の参加がありましたが、若い女性の参加で空気も一段と和やかになりました。これからも、1人でも多くの仲間を誘い合い、特に若い会員の加入を積極的に進めていきたいと思ひます。

副支部長＝伊藤隆一（58回）、幹事長＝大森尚人（68回）、幹事＝土屋隆（60回）長谷川茂夫（60回）林靖（62回）勅使河原明英（66回）田中正幸（71回）川島弘（73回）小澤利長（78回）福島正寿（80回）中村梅基（92回）、会計＝武居保男（80回）橋本実樹（83回）、事務局＝加島範久（70回）赤羽博（78回）

岡谷支部

支部長・花岡栞好（68回）記

支部長＝花岡栞好（68回）、副支部長＝佐原一誠（64回）小口憲司（69回）竹村文男（72回）

事務局＝諏訪信用金庫内 土橋和彦

〒394-8611 岡谷市郷田2-1-8

TEL 23-4567 FAX 24-4055

◇活動内容

支部総会

平成21年2月27日

参加者＝80名

来賓＝細田教頭先生、松下同窓会長

「南極で作る高野豆腐」の話やオーロラ観測の話も出て、在校生の活躍を称賛する声が多かった。また懇親会の冒頭では「甲子園出場の期待」や「ノーベル賞受賞の期待」など今後の夢が膨らむ話があった。約2時間の懇親会は大変な盛り上がりで、世代を超えての交流が図られた。締めくくりは校歌をみなで歌い、再会を約して散会した。

本部総会支援のための役員会

平成20年6月11日

支部役員会（参加者＝22名）

平成21年2月12日

下諏訪支部

平成20年度の行事として、例年どおり、8月に納涼会、本年3月に支部総会を行いました。

納涼会は夏も気軽に集まって母校のことを含めてお互いの情報交換をしたい、体調から夏なら参加できるという先輩の声もあり、清陵に関係する小講演と併せて毎年行われています。今年は8月5日に24名出席して、前学校長の古原正之先生をお招きして、「前校長 母校を語る」の演題で小講演を行いました。校長時代には語れなかったことも含めて最近の学校事情を興味深く話をさせていただいて、英気を養いました。

総会は3月7日に松下同窓会長、篠原学校長をお迎えして、40名参加して行いました。総会は母校の状況を知ってそれぞれの立場で何か母校の発展の支援ができないか考えることと、世代を超えて交流を図る機会です。今年も物故者への黙祷、来賓の挨拶、議事、本部定期総会のお誘いを当番幹事の76回生が行い、記念撮影をした後、懇親会に入りました。大いに盛り上がり、最後に校歌を最後まで斉唱して、再会を誓って終わりました。

諏訪支部

支部長・山崎晃（64回）記

昨年来世間の経済状況は日増しに悪化し、諏訪の平は

整形外科 外科 産科 婦人科

立木 医院

立木 正 純（38回）（整形外科）

（日本体育協会公認スポーツドクター）

（山本喜市先生顕彰碑保存会会長）

（全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター）

立木 委 枝（産婦人科）

〒392-0004 諏訪市諏訪1丁目22-24

電話 0266-52-1074



創業 仙 岳 シュバシュバ
ふく料理
天 ぶら

代表 小口 達 夫
小口 慶 一 郎（84回）

諏訪市湖岸通り5-17-3
TEL 0266（58）3515

支 部 活 動 報 告

火の消えた感じがします。出張の帰りタクシーで自宅に戻るとき、窓越しに街中は空き地が増え、駐車場に変わっていますが、満杯になっていることはほとんど見ません。そうとう市内は景気が悪いと思います。

さて私より2年先輩の石城支部長から昨年11月、諏訪支部長をバトンタッチされました。高校時代良い生徒ではなかった私が引き受けます。微力ながら支部運営のため頑張りますので宜しくご指導をお願いします。

諏訪支部は支部総会を中心に活動しています。

支部総会は平成20年11月14日(金)午後6時から約120名近くの同窓生の出席により開催されました。物故者黙祷に始まり松下同窓会長、細田教頭の来賓祝辞、議案審議を無事決議し、役員改選を行いました。

新たな役員に次の6名が選ばれました。

支部長＝山崎晃(64回)、副支部長＝堀内昌翰(66回)、事務局長＝栗田勝(64回)、会計＝原英充(65回)、会計監事＝石城祐吉(62回)、原宏(63回)

特別講演は76回生の浅川クリニック院長の浅川清氏に「特定検診(メタボ検診)について」と題し、現在の話題に相応しい講演をして頂きました。

その後懇親会を和やかにを行い、校歌斉唱をして散会しました。

その他に、総会開催に向けての準備のため、三役会と役員会を3回実施しました。

茅野支部

事務局長・北原正信(69回)記

茅野支部総会は、平成21年2月7日(土)に茅野市駅前のサンパレスで開催されました。今井正喜副会長、篠原秀郷学校長のご来席を仰ぎ、総勢72人の同窓生の出席で盛大に開催できました。

茅野支部は毎年1回総会を開催。今後の同窓会や学校の教育のあり方などを同窓会長、学校長などからお聞きした後、同窓生間で親交を深めるとともに、当地域出身の同窓生を講師に話を聞く講演会を開いています。今年は伊藤博夫さん(50回)を講師に「郷土の先輩に学ぶ―その哲学的思考と態度」と題した講演をいただきました。伊藤さんは、まず「書物を読むこと」について、ドイツ旅行の時のスライドを紹介しながら、その大切さを

話されました。第二部では専門のカントとその哲学の要点などを解説。第三部では岩波茂雄や豊平生まれの長田新の哲学的思考について触れ、郷土の人物について理解を深めました。

引き続き全員で記念写真を撮り、懇親会に移りました。乾杯の音頭を今井副会長にお願いし、祝宴に入り、それぞれの近況を語り合い歓談し、宴は盛り上がりしました。宴が最高潮に達したところで校歌の斉唱です。当支部には、柿沢武氏(故人・58回)が遺された校歌の第一、第二全文の横断幕があります。壁に掲げた校歌に向かい、若き希望に満ちた時を彷彿しました。

富士見支部(岳陵会) 支部長・小池博之(63回)記

富士見支部(岳陵会)定期総会は、平成21年2月15日、富士見町富里の味彩で開催。同窓会本部より松下勲会長、母校より篠原秀郷校長のご臨席をいただき、33人の同窓生が出席して盛大に行われた。

58回生の御園廣實弁護士(桜ヶ丘)が「裁判員制度元年 期待と不安」の演題で講演した。御園弁護士は講演の中で、5月から施行する裁判員制度について「国民が望んだものでなく、他国から押し付けられたものだ」とし、問題点や疑問点を語った。米国の陪審員制度と異なり、市民から選ばれた裁判員がマスコミからの事件報道の影響を受けやすいことなどを挙げ、「法令や裁判手続きを理解できるのか、事実関係の微妙な部分を判断できるのか疑問だ」とした。死刑、無期懲役など重大事件を扱うことについても問題点を指摘、「期待をもって臨まれては困る。不安がいっぱいだ」と語った。

◇事業内容

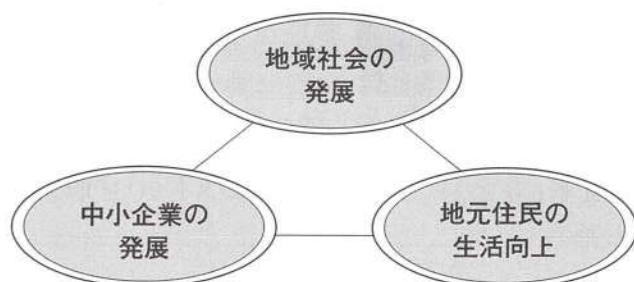
1. 支部組織強化のため新会員への加入の呼びかけ
2. 本会定期総会への積極的参加
3. 清陵富士見会(首都圏在住の富士見町出身者200人で構成)との交流
4. 物故会員への弔意
5. 支部定期総会開催(2月15日)

◇新支部役員

支部長＝小林長吉(61回)、副支部長＝小林 光(60回)
飯田幹夫(69回)、事務局長＝川合弘人(76回)

「この街と生きていく。」

諏訪信用金庫は常に地域の活性化を図ることを真剣に考えています。



諏訪地域に本店のある地元の金融機関

諏訪信用金庫

<http://www.suwashinkin.co.jp>

会 長 宮坂 久臣(49回)

理事長 花岡 柊好(68回)

学年会短信

回	名称	活動内容・幹事短信
38		38 回同期生の皆さん、体調はいかがですか。米寿の集まりをもってからもう2年。また大きな人生の峠を越える歳になりました。体と相談しながら、無理をせず、1日1日を有意義に楽しんでください。ご多幸を祈ります。(幹事／小林克己TEL 64 - 2063)
40	述志会	昭和9年諏訪中学校に入学した200余名の述志会の会員は本年米寿を迎えます。年々会員が欠けてきましたが、今なお第一線で働いている人が、諏訪地方で3～4名、東京方面で数人おられます。足腰が弱くなったりして外に出にくくなった人たちも皆体をいたわりながら、それぞれのやりたいことに向かって努めています。年に1度もつ述志会の会合に出席することを楽しみにして交友を深めています。(幹事／加々見一郎TEL 65 - 3420)
45		昨年の同窓会定期総会(6月28日・ホテル紅や)には、宮坂裕君、藤森清司君、小松一弘が出席。懇親会では、諏訪湖を眺めながら青春時代を懐かしく語り合った。今年の諏訪湖は1月中旬に一旦ほぼ全面結氷した。しかしその後はすべて融け、出現が期待された御神渡の現象は見られず、「明けの海」となった。諏訪湖上でお互いに下駄スケートで滑ったスケート大会のあの頃が懐かしい。新年の長野日報ふるさとの賀状(1月1日付)の中に、今年も北海道の河西章君や、東京の岩波一寛君の「ふるさとを想うたより」があり、うれしく、ありがたく思っている。(幹事／小松一弘TEL 52 - 6911)
48		平成20年度には1部、3部の同級会ならびに東京白樺会の同年会が行われ、お互いの無事を確かめ合い、旧交をあたためました。また、東京白樺会から「学窓」第8号が発行されました。平成21年度は、今のところ、東京白樺会、3部の会合が予定されておりますので、多数の皆様のご参加をお願いいたします。(幹事／木下芳英TEL 23 - 5704)
52・55	双樹会	1. 双樹会定例会 ・諏訪月例会(七日会): 上諏訪駅前「いずみ屋」 ・東京月例会: 第三月曜日・日本橋「扇寿司」 ・東京納涼会: H20.8.30・新宿「東京センチュリーハイアット」 ・年度総会: H20.11.3 諏訪市「湖泉荘」 総会は以下の双樹会美術展の会期に合わせて開催。恩師・立川義明・牛山之雄両先生にもご出席いただき、総勢50余名が集う。 2. 第3回双樹会美術展開催と「美術作品集」発刊 H20.11 初旬・上諏訪駅前「まるみつ」5階市民ギャラリー。上記立川・牛山先生とともに故宮下卓郎先生、故後町富佐治先生の作品も賛助出品して頂き、会場を盛り上げた。これに合わせて前回の美術展出品作品を所載した「美術作品集Ⅱ」を発刊した。 3. 同窓会元幹事・三井光之兄を送る わが双樹会産みの親のひとりでもある彼は、夏の高校野球県大会応援の常連であった。その彼が昨夏、甲子園を見ずして天国に召されてしまった。ご冥福を祈る。 (幹事／52回・千葉春男TEL 23 - 1176 55回・五味省七TEL 72 - 3634)
61		・合同ゴルフコンペ: 6月中旬。会場=小淵沢カントリークラブ(予定)・納涼会: 8月9日。会場=諏訪市内・忘年会: 12月23日。会場=諏訪市内(幹事／土橋勉TEL 72 - 4840)
64	ザザムシ会	久しぶりに同年会を開きます。詳しくは改めてご案内致します。期日: 平成21年7月3日(金)。スケジュール: 諏訪湖CCでゴルフを楽しみ、夕方からホテル紅やで懇親会です。(幹事／小松修治TEL 52 - 3121)
65	八日会	今年の同年会は次のとおり計画中です、多数の参加をお待ちしています。 ・東京会場: 6月5日(金)午後6時～ 神田シティホテルの予定です。 ・諏訪会場: 10月頃を目途に検討中です、今年の幹事は3部です。 また、昨年も紹介しましたが、諏訪地区在住の65回生有志が集まつの飲み会である「八日会」は引き続き実施しています。毎月8日の6時30分から上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催していますので、気軽に参加してください。諏訪地区在住者以外でも諏訪へ来た際にはぜひ顔を出してください。 (幹事／青木成雄TEL 53 - 0072)
68	けっこう会	68回生諸君! 久しぶりに集い、語り合おう! 同窓会総会終了後、68回生の第9回学年会を開催します。人生62年を振り返り、大いに語り合いたいと思います。皆様には連絡できる学友と誘い合って、是非学年会にご出席ください。(出席・欠席の連絡不要。「けっこう会」と同時開催します) 日時: 6月27日(土) 18:30～会場: 紅蘭(諏訪市湖岸通り5-17-7 TEL 0266-58-1443) 会費: 3000円(幹事／伊藤八郎TEL 52 - 3769・090 - 7953 - 0665)
69	無垢の会	第34回ゴルフコンペ予定 開催日: 平成21年6月20日(土) 会場: フォレストCC 三井の森(幹事／矢澤博TEL 72 - 8974)

72	篝火の会	月1回くるみで開く例会には心づくしの料理に地酒やワインがどこからともなく集まり、気がついてみれば東京の懐かしい顔やら初対面の奥方も一緒になって盛り上がっています。掲示板「清陵のお庭」は硬軟ふたつのサイトで自由闊達な“談論会”を展開中。今年の学年会総会は6月27日午後7時から諏訪市大手の伊呂波で開催。会費3000円。ふるって参加を。(幹事/小泉悦夫Tel 58-2510)
75		昨年の同窓会総会には多くの同窓生の皆様にお集まり頂き、非常に盛大に開催することができ、感謝に耐えません。また、多くの同年生の参加にご協力に感謝致します。特に、女性の皆さんは50%以上の参加率で前代未聞だそうです。これからは、年1回の同年会を開きたいと思いますので、参加をお願いします。(事務局/藤原光郎Tel 79-4019)
77		今年はサブ幹事。来年はいよいよ当番幹事です。77回生諸兄弟の物心両面にわたるご支援・ご協力を何卒宜しくお願い致します。(幹事/長田光正Tel 090-7177-0190)
93		「清陵出てから20年…」記念同期会のお知らせ。93回生は今年度、清陵を卒業してから20周年を迎えます。そこで、2009年(平成21年)8月14日(金)、ベルファイン(旧橋場会館)にて、お世話になった学級担任の先生方をお招きして懇親会を行います。会費6000円で17:00開宴予定です。談論会、校歌、民などを計画しています。6月末までに学級幹事の方から現住所または実家に連絡を差し上げる予定ですが、届かない場合は下記メールアドレスへ連絡をお願いいたします。全体幹事:吉川豪(yskwgo@yahoo.co.jp) 小口信行(suwaseiryu93@po30.lcv.ne.jp) (幹事/吉川豪Tel 78-1927)
99		毎年6月に諏訪のホテル紅やで定期総会(同窓会)が開かれますが、今年は是非参加してみませんか? 卒業してから一度も会っていないという懐かしい顔にも会えると思います。またいずれ我々にも当番幹事が回ってくるので、気が早いですが今からどうなるのか、と心配しております。そこで我こそは幹事をやりたいという方の参加もお待ちしております。(幹事/荒木健太郎)
110	金色会	2009年正月4日、まもなく新成人となる清陵110回生が一堂に会し、同窓会が開催され、『金色会(こんじきかい)』という名前が新たに決定された。もちろん、これは清陵生の大いなる所産「金色の民」の冒頭、「金色の民いざやいざ」から取られたものである。2008年の秋頃から日本そして世界は100年に一度の未曾有の不況につつまれた。その真っ只中私たちは成人式の日を迎えた。“大人”への旅立ちは大きなうねりをともなうこととなった。もう1年もすれば就職戦線に出陣する人も多いだけに、この不安な世相が一体私たちにどんな影響をもたらすのか不安に思う同胞も多いはずだ。こんな時代だからこそ『自反而縮雖千萬人吾往矣』を忘れてはならない。「こんな時代だから」と流れのせいにすることを私はしたくないと思う。バラク・オバマではないが、それこそ“Change We Need” “YES WE CAN” なのではあるまいか? 110回生『金色会』の会員たちはどの世代にも負けないくらい、清陵生としてのキャラが濃かった学年だと自負している。このパワーが日本の社会を動かす原動力になりえることを切に願う。(幹事/中村智哉)

50回、52・55回、57回、60回、92回生については「学年会だより」に

学年会だより

50回生(互助会)

諏中から清陵へと6年間(昭和19年～25年)清水ヶ丘で友情を結んだ仲間たち。現在は東京6月、諏訪8月の定期会には上京組や帰郷組を合わせてそれぞれ毎回30余名が集う。

めでたく喜寿を迎えたが、一方70余名が故人となってしまった。それでも懐かしい顔を確認し合って、何のわだかまりもなく青春の思い出を語り合えることは何という喜びだろう。

昨秋、先輩にして(37回)恩師(昭和20年～24年)の立川義明先生の卒寿記念「彫刻の道」展(平成20年10月8日～11月3日)が、新装成り日本建築学会賞に輝く茅野市美術館(茅野駅東口)で開催された。52回生の諸君とともにわが50回生互助会の有志20余名もオープニングとギャラリートークに参加、お祝いを申し上げ、お話を聴くことができた。白髪白髯レオナルド・ダ・ヴィンチを思わせる先生は、よく透る声で長い創作・創造への歩みを語られた。初期の端正な木彫作品から独自のスタイルの探求へとお話はつきない。質問に対してじ

つくり考えられて答えられる先生の姿勢には遙かな年月をへだてて再び教えを頂いた気がした。

先生の野外彫刻は、東京はじめ母校清陵高校、諏訪教育会館、更に諏訪・上諏訪・諏訪西の各中学、城南小に設置されている。

先生の元気で活躍されている姿に、我々は暖かく大きなものを与えられた一日だった。

(幹事/宮阪芳久Tel 23-1176・写真/平林茂幸撮影)



52・55 回生 (双樹会)

95 歳大先輩や後輩たちで行った大連・旅順の旅

平成 20 年 6 月 1 日～4 日、「アカシアの大連・桜桃の金州、清陵 OB 南山への旅」と銘打ち同窓生ツアーを実施した。同窓会長 4 年の任期も間もなく終わろうとする林尚孝兄が双樹会員を中心に呼びかけた旅で、大連は林団長の生まれ故郷という。そして、彼が最近打ち込んでいる研究対象の文豪森鷗外ゆかりの古戦場でもある。この時の参加者は双樹会員の大谷溥、清水純（リヨ子夫人）、林尚孝（芳子夫人）、武川泰雄、藤森昇の 7 名、これに宮坂水穂（31 回）・市川一雄（56 回）・小林俊光（57 回）・小平克（58 回）・米山勉男（63 回）の諸兄を加え総勢 12 名だった。

中でも宮坂水穂大先輩は、第 2 次大戦中、北満より南方へ転進時大連に停滞した思い出の地ということで、誘いには真先に手を挙げられた。95 歳ながら今なお矍鑠として道中之無事。さらに旅行中の 6 月 3 日にはなんと 96 歳の誕生日を迎えられた。その夜、お名前にちなんで水色の水晶に「水穂」と刻した印鑑を贈り、盛大なお祝いをしたのは勿論である。

この 1 世紀の間、2 度の大戦で勝者敗者所を変えた古戦場を巡るミニ同窓会ツアーだった。

柳澤寿男さん指揮のオーケストラを聴く会

オーケストラ指揮者柳澤寿男兄（93 回）は、現在独立問題を抱える東欧のコソヴォでコソヴォフィル常任指揮者として活躍中。その彼が平成 21 年 1 月 25 日、所沢市アークホールで東京シティー・フィルハーモニック管弦楽団を指揮してベートーヴェンの第九などを演奏し



清陵双樹会定期総会にて（平成 20 年 11 月 3 日）

た。長田篤諏訪幹事が双樹会員とその家族に呼びかけ、東京・諏訪両地区合わせて 20 名ほどが参加し、熱演を堪能した。

（藤森昇・52 回記）

57 回生

57 回生は平成 16 年 8 月に「清陵出てから 50 年記念同期会」を諏訪湖ホテルで開催（参加者 80 余名）して以後、同期会は開催していないが、クラスごとでは毎年同級会を開催し、旧交を温めている。

恩師も牛山之雄先生お 1 人になってしまった。また同期会の物故者も 50 名を数え、寂しい限りである。が、そうした中で、昭和 57 年より有志で始めた「NM ゴルフ会」（ナイスミドルの会…数年前、会の名称と現実が乖離しており変更しては、との意見が出たが、何時までも若い気持ちを維持して頑張ろう！ とのことで、変更していない）を毎年 2 回（冬は境川 CC・夏は諏訪湖 CC）開催しており、本年は第 55 回大会を境川 CC で開催する。参加者は年々少なくなっているが、先輩・後輩を含め 30 余名の参加者があり、交友を深めている。（新規参加希望者は茅野嘉利までご連絡下さい）

70 歳を過ぎ、第一線を退く人が多い中、今でも現役で頑張っている仲間も少なくない。思いつくままに列挙すると、地元では、矢嶋民雄（富士見町長）、清水澄（原村長）、薄井哲哉（内科医）、溝口幸二・小口敦巳（歯科医）、小松隆次（日本ミクロン会長）、中山源司（信州豊南短大）、天野丈久（長野精工）、荻野浩（清陵同窓会上伊那支部長）、武居幸重（梅印刷）、守屋正雄（寝具点）、県外では、石城謙吉（北大名誉教授・自然保護運動家）、大井利夫（上都賀総合病院院長）、清水勝（杏林大学客員教授）、小河原章博（アース環境サービス相談役・食品等異物混入防止研究）、藤森敬三（藤森環境経営研究所代表）、塚原重雄（山梨大理事・副学長）、益井輝幸（税理士）、矢崎文彦（千葉大環境学科）、上島武（清陵同窓会副会長）、中沢富夫（マテリアルサイエンス社長）等、各分野で活躍しており、頼もしい限りである。

喜寿を迎える平成 24 年には同期会を開催したいと考えている。

（幹事／茅野嘉利 TEL 52 - 6564）

医療法人 順 恵 会 伊藤外科医院

院長 医学博士 伊藤隆一（第 58 回生）

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富 7483
TEL 0266-41-3388

高齢者向け賃貸住宅 介護終身対応型

カーサ・デ・ソル湖浜

館長 山岡 恵（76 回）

（旧細川）

〒393-0045 長野県諏訪郡下諏訪町 6150-4
TEL 0266-27-3850 FAX 0266-27-3865



古希を祝う睦和会にて (平成20年7月27日)

60 回生 (睦和会)

とうとう我々もこの3月をもって全員が古希を迎えた。懸案の「古希の祝い 白樺サミット」で池の平ホテルに総勢108名(内夫人28名)が集い、一堂に会した。これは還暦の祝い(甲府常盤ホテル)のそれより4名少ないだけの盛大な催しとなった。

孔子は「70にして心の欲するところに従って矩を踰えず」と言って73歳で没し、その後がないので、我々もそれをこれから模索しなくてはならない。当日は雨模様だったが、満開のニッコウキスゲと、宮坂照彦君が孤軍奮闘しているシルク岡谷の座繰生糸工場を見学し、八洲そばで打ち上げた。

今年は7月末に2泊3日で利尻礼文島「花と魚の旅」45名の参加で実施が決定している。

毎月、諏訪地区は6の日に定例会を行い、東京睦和会は秋に総会を実施し、今年は二木隆君(7部)幹事で芸者十名侍らして隅田川下りを行う(確定)。また小平宏君が会長として主催する「ミクロサロン」も年々盛会となり、約40名の多士済々の(理屈と酒と好奇心の塊みたいな素晴らしい)メンバーが例会の機関誌「従心ミクロサロン」を発刊している。

(幹事/笠原文武TEL 53 - 0506)

92 回生 (九二会)

九二会 五萬節で ご満悦

我々は、平成21年3月に高校卒業20周年を迎えるにあたり、平成20年7月12日(土)、諏訪のシティホテル成田屋に、①

20年振りの再会、②五萬節92回生バージョン合唱、③92回生のネットワークの確立、を目的として、恩師5先生(神谷・熊井・丸山・矢島・皆戸各先生)をはじめ、遠くはアトランタ・福岡からの同期生85名にお集まり頂いた。また、投票にて、92回生の会の名前が、単純明快「九二会(きゅうにかい)」と急に決まった。

同期会に先立ち、幸運にも同期で現役清陵教諭、藤澤幹彦君の監督の下、38名が奉仕活動として母校の窓拭きを行った。「清陵出てから20年〜♪」の五萬節では、各クラスの名物教師・生徒の近況が暴露され、総勢90名の「校歌」「民」は、アラフォーの我らには過酷であった。

今回、地元在住につきクラス幹事をご快諾頂き、献身的な活動をされた写真最前列の方々には感謝しきれない。運営に際し、朋友が卒後20年に培った社会的配慮の仕方、データ処理、などの智慧に学ぶところは多かった。次回は10年後の2018年に、30周年の再会を誓い、クラスごとの同級会へ移行した。その夜、全学年1/3強の総計125名の92回生が、諏訪の町の景気回復に貢献したことになる。

恩師の先生方は、ご指導頂いた頃の年齢が今の我々に近かったことも知り、その偉大さを改めて知った。また、同期生が、様々な職種で中堅的役割を果たしていること・良き家庭人になっていることがうかがえて嬉しく思ったのは私だけではあるまい。この再会が各自の今後の人生の糧になることを祈ってやまない。

(幹事/笠原健一TEL 58 - 5346)



九二会卒業20周年記念同期会にて (平成20年7月12日)

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **ノイズカットトランス**™

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



GOOD DESIGN
AWARD

電源障害防止
中央競馬会
表彰品



NCT-Z 型



高度情報化社会のアクセラレーター=不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす
株式会社 電研精機研究所
創業者(工博) 矢ヶ崎昭彦(47回)

本社: 〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613
大阪営業所: 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5プロスベリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777
ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等を承ります。 URL <http://www.denkenseiki.co.jp/>

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成21年4月30日までにご連絡をいただいた方々)

回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日	回生	お名前	逝去年月日
28	小平 重紀	H20.3.8	39	味沢 興重	H21.2.2	49	小川 公正	H19.7.13	57	松沢 壮三	H19.3.19
28	柴田 浩	H19.	39	石倉 勇	H20.2.24	49	小口 涛夫	H21.4.5	58	高嶋 修一	H21.4.6
28	林 憲一	H19.12.6	39	笹岡 英俊	H20.7.15	49	木見尻康彦	H18.11.25	58	吉江 恵造	H19.10.24
28	原 一三郎	H21.1.12	40	小宮山 誠	H20.8.27	49	名取 辰吉	H20.12.7	60	北原 光穂	H19.6.19
30	中山 亘	H19.11.3	40	林 三平	H20.5.15	49	両角 俊美	H20.9.10	60	中村 勝一	H21.1.14
31	林 武	H19.4.6	41	小口 陽一	H20.11.28	49	矢ヶ崎英一	H21.4.9	61	林 純吉	H20.7.6
32	北原 登	H19.11.14	41	武田 博夫	H19.11.17	50	伊藤 熊智	H20.6.28	61	渡邊 芳夫	H20.4.20
33	伊藤 文夫	H16.12.4	42	大蔵 昇	H20.5.13	50	小林 茂雄	H20.8.15	62	進藤 恒	H19.10.12
33	犬塚 勝	H20.5.18	42	林 正雄	H20.11.25	50	武居 哲也	H21.4.23	63	笠原 政樹	H20.7.23
34	濱 真喜男	H20.7.31	42	細川 勝人	H20.4.15	50	田中 康穂	H19.9.22	64	小泉 隆信	H19.10.16
35	土井 芳武	H20.2.14	42	矢崎 好夫	H20.6.14	50	波多野里望	H20.3.16	64	林 實	H21.3.14
36	井上 雅夫	H21.3.29	43	小川 一吉	H20.1.	50	松崎 元博	H21.2.3	65	小山 哲朗	H20.10.23
36	上原 利雄	H21.5.19	43	近藤 武	H20.5.28	51	有賀 多郎	H21.3.4	69	両角 吉人	H19.3.3
36	小口喜久二	H20.1.28	43	丸山 剛	H20.11.24	51	小林 猛	H19.8.9	70	窪田 三郎	H18.9.16
36	小口 達美	H20.1.6	43	山田 順一	H20.3.21	51	鈴木 敏史	H20.12.3	71	笠原 康司	H19.3.9
36	河西 国一	H20.5.4	44	海老原 栄	H20.3.1	51	原 正	H20.8.21	83	五味 勇雄	H20.4.9
36	佐藤 正彰	H20.1.22	44	花岡秀一郎	H20.10.25	51	平出 進	H19.5.12	87	吉田 任邦	H20.5.12
37	笠島 嶺信	H21.1.16	44	原 敏	H21.1.3	52	笠原 智	H20.9.30	92	梅垣 隆	H17.12.13
37	木川 達爾	H20.10.5	45	中山 幸村	H21.1.10	52	田上 明	H19.1.19	93	有賀 英行	H20.10.18
37	藤森 卷茂	H21.1.24	45	宮下 三男	H19.3.18	55	小林 正樹	H21.4.28	105	下倉 正樹	H21.2.23
37	山口 富次	H21.3.20	46	長田 源康	H20.6.19	55	三井 光之	H20.8.15	114	小林 秀輔	H20.12.29
38	後藤 直人	H20.5.21	48	岡山 聖	H19.1.4	56	萩原 賢三	H20.1.21	旧職	北原 邦英	H20.7.9
38	野沢 久男	H20.2.9	48	小松 文彦	H20.7.27	57	小澤 敏子	H20.5.3			
38	細川 東平	H20.7.28	48	矢崎 栄一	H20.1.11	57	河西三千穂	H21.1.3			
38	吉沢佐賀利	H20.3.11	49	遠藤 純知	H20.5.16	57	中村 平八	H21.4.2			

《お詫び》昨年の『会報』第34号「訃報」欄に47回生・鮎沢章夫様のお名前を誤って掲載してしまいました。ご健在であられます。鮎沢様には大変なご不快の念とご迷惑をおかけ致し、またご関係各位にもご心配をおかけ致しましたこと、誠に申し訳ございません。茲に慎んでお詫び申し上げます。

事 務 局 だ よ り

◆昨年6月を以て林尚孝会長・岩田昌久副会長が退任なされました。同窓会のためにご尽力を賜り、茲に改めて感謝申し上げます。そして松下勲新会長のもとで1カ年が経過しました。

◆平成21年4月20日に恒例の「道志社先輩ならびに物故会員慰霊法要」が地藏寺にて執り行われ、会長ほか17名が参列。地藏寺本堂は来年4月に落慶法要が執り行われる予定。平成9年暮れ「道志社之碑」が改修され、これを機に道志社先輩の法要が始まり、程なく広く物故会員の慰霊も併せてどうだろうとの話が出た由。そして同11年の彼岸に、地藏寺住職篠崎知足(59回)と檀徒総代の栗林松治(39回)、井上彦次(42回)、北原善次(43回)の4氏により立派な位牌が奉納されました。こうした経緯を経て翌12年から現在の「道志社ならびに…」に。学年会等で物故同年生の法要を地藏寺で執り行う場合、この位牌を仏前にして読経をされるのがよろしいとは篠崎住職のお話。

◆平成20年度中の「清陵OB文庫」へ寄贈頂いた図書等は下記の通り。有難うございました。

・小平 克(58回) 著『森鷗外論―「エリーゼ来日事件」の隠された真相』朝倉一善(73回) 著『日本全国神仏修行入門』、『「奇跡」の温泉―医者も驚く飲泉記』

・柳平啓明(61回) 著『準一日記とその孫一敗戦後の6年間の生活―』

◆昨年はこの欄に、母校の歴史を知る資料のひとつとして『校友会誌』、『報国団誌』(旧制中学校)、校友会誌『清陵』(高校)の古い号(年度)の寄贈依頼をしました。古い資料といえば各地方会の『会誌』もあり、旧制時代の硯友会(旧長地村)の『会誌』の寄贈がありました。小口哲男(44回)・藤森弘國(45回)両氏が49冊を収集したもの。旧制から新制初期に作られた地方会の立派な会誌も、会員の高齢化で散逸の恐れがあるのではないかとのこと。三澤文庫に保管されている地方会誌もありますが、これらを含めて学校・同窓会の歴史を知る様々な古い資料の収集・保管も必要なことかなと思う次第。

◆平成20年度 学校同窓会係・事務局

・学校同窓会係：岩波文人(主任・78回) 大久保純男(80回)

今井 隆(83回) 奥村達朗(86回) 小宮山健司(87回)

井口智長(88回) 藤森秀則(88回) 五味仁美(97回)

山崎典英(学校事務長)

・事務局：武居浩明(56回・月曜日と金曜日に出勤)

小口修平(79回・必要に応じ出勤)

電話 0266-58-0356 FAX 0266-57-0348

E-Mail dousoukai@suwaseryo.jp

ホームページ http://www.suwaseryo.jp

76回生「奇跡の復活バンド」からひと言

76回生「奇跡の復活バンド」といわれているバンマスの丸山です。

昨年の同窓会で、「来年は我々76回生が学年幹事であるなら、76回生らしいアトラクションにしたい。当時のロックバンドを再結成したらどうだ!!」と多数の仲間から要望があり再結成を決意しました。当時の清陵には正統派ロックグループ「シビレ・ウナギ」と自己満足ロックグループ「ドロベッチャン」があり、私は後者に所属していました。大学進学後も現在に至るまで、単なる音楽好きに飽き足らず、色々な仲間と音楽活動を続けてこれた礎はすべて高校時代の活動に他なりません。

バンド結成のため、恐る恐る当時のメンバーに連絡を取りましたが、皆音楽好きであることに変わりはないものの、清陵卒業以来一切楽器を触っていないメンバーもいて頑なに断られました。熱心な説得と脅迫で何とか結成に漕ぎ着けました。当初は酷い状態でしたが、皆以前演奏経験があるため「身体」が覚えており何とか形になってきたように思います。6月本番を目指し血のにじむような練習をしています。皆様に涙が出るほど懐かしい曲をお聞かせしようと頑張っておりますのでご期待下さい。

丸山光彦(76回)

編 集 後 記

知命(五十歳)を過ぎ、未だ天命を知らず過ごす日々。卒業以降初めて会った多くの76回生共々、これも天命か!? と会報編集に携わることとなった。地区を変え開催した毎月の部会の度に盛り上がりが増していくメンバーの姿が、高校時代の面影に重なったのは私ばかりではなかったのでは…。清水ヶ丘から育ち磨かれ花開き、活躍している後輩・同輩たち、また円熟の時を迎えた先輩諸兄の今を目の当たりにし、ご寄稿頂いた方々の真摯な生き方と芸術活動の素晴らしさに改めて感銘をうけた。この度の会報編集・発行に当たりご協力頂いた学校ならびに同窓会関係者、発送に共に携わった在校生、その他多くの関係各位に深く感謝致します。ありがとうございました。

会報部会：大滝啓吉 牛山英俊 小川清 河西亨 唐沢千明 川合弘人 小平憲良 長田正秀 藤森直幸 矢崎正典 朝倉義信(学年幹事長) 矢崎敏臣(幹事長代理) 向山光(総務部会長)